

一般社団法人福祉防災コミュニティ協会

第6期（2021年度）事業報告書

～ 安全・安心で魅力ある福祉を目指して ～

目次

はじめに	1
総会及び理事会等の開催	3
第4回公開シンポジウム	4
研修の実施	6
被災地への支援	50
福祉防災認定コーチ、上級コーチ認定者	53
展示会等への出展やマスコミ等による紹介	54
フェイスブックによる情報発信（災害関係のみ）	59
その他の活動	62
2021年度の成果（実績）とインパクト	64
2021年度の成果を受けた新たな課題	76
2022年度の実施計画	78
法人情報	80

はじめに

会長挨拶

3年間続いた新型コロナウイルス感染症がようやく落ち着く兆しが見えてきました。しかし、今なお、福祉職員は最前線で緊張の日々を送られています。心から感謝を申し上げます。

私たちは、福祉施設においては「消防計画」に加え、災害に備えた「避難確保計画」、「事業継続計画（BCP）」、「福祉避難所計画」が必要であることをアピールしてきました。新型コロナウイルス対策の辛い経験から得た感染症対策も、引き続き強化しなければなりません。

この状況を受け、2021年度に厚生労働省が介護保険事業所、障害福祉サービス事業所に3年以内のBCP作成を義務付けました。2021年5月の災害対策基本法改正により、避難行動要支援者の個別避難計画作成が市区町村の努力義務となり、福祉関係者の積極的な関与が強く期待されています。当事者を中心に、福祉と地域コミュニティが連携して、平時にも災害時にも安全で安心な地域共生社会づくりを進める大きなチャンスとも言えます。

2021年度は、（一財）消防防災科学センター様からの委託事業により、三重県、長崎県、奈良県、岡山県、鳥取県、愛媛県、熊本県の7県で福祉避難所マニュアル作成研修を実施しました。2022年度も7県で福祉避難所マニュアル作成研修を行います。ただ、全国の市区町村で福祉避難所マニュアルを作成しているのは15%程度に過ぎません。そこで、今年の出水期に少しでも多くの福祉避難所が開設されることを願って、本協会の「福祉避難所開設・運営マニュアル」を無償で公開しました。すでに150以上もの自治体、福祉施設がダウンロードされました。

また、福祉BCPについても、自治体、社会福祉協議会、学校、地域団体やボランティア団体等から研修依頼が多くなり、さらには大手企業とも連携してオンライン研修が始まっています。

昨年は、企業版ふるさと納税を活用して、秋田県男鹿市と島根県浜田市で停電対策の給電器、水不要のバリアフリートイレ、防災用品を組み合わせた福祉避難所を整備できました。今年も進行中の案件がいくつかあります。全国でこの取り組みが普及し、災害時に福祉施設や特別支援学校が助け合える仕組みづくりを進めてまいります。

乳幼児、妊産婦、障がい者や高齢者と地域とのつながりが弱くなり、社会インフラに依存する都市型社会にあっては、「地域共生社会づくり」が極めて重要です。

今後とも本協会に対し、関係者各位のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

2022年6月吉日

一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会 会長 浅野 史郎

活動の目的

全国の福祉施設や職員の災害対応能力向上と魅力増進を支援するために、防災・事業継続計画（BCP）研修等の事業を行うとともに、平時からの福祉防災コミュニティづくりと災害時の福祉支援を行うこと。

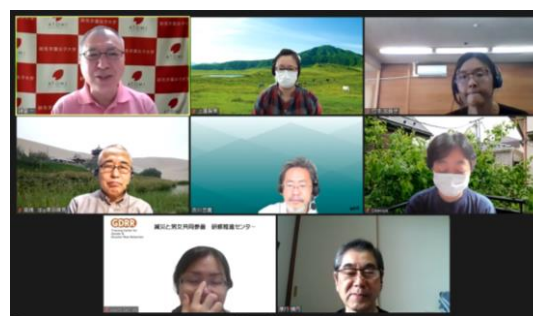
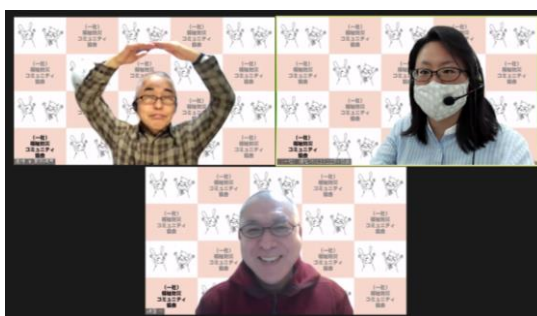
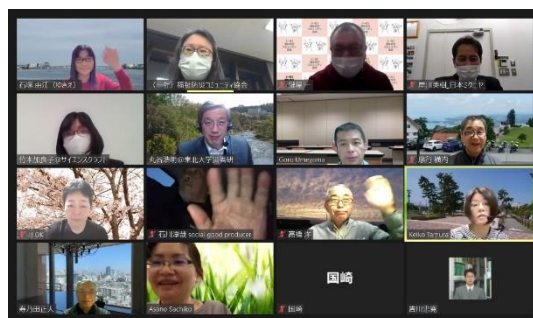
会長、顧問、理事、監事名簿

会長	浅野 史郎	株式会社土屋特別研究員・元宮城県知事
顧問	岸田 宏司	和洋女子大学学長
顧問	高橋 紘	東京都福祉施設士会会長
顧問	立木 茂雄	同志社大学社会学部教授
顧問	中林 一樹	首都大学東京・東京都立大学名誉教授
顧問	林 春男	防災科学技術研究所理事長
顧問	原口 兼正	元セコム株式会社代表取締役社長
顧問	室崎 益輝	神戸大学・兵庫県立大学名誉教授
顧問	目黒 公郎	東京大学大学院生産技術研究所教授
顧問	安江 哲	オフィス安江代表
代表理事	鍵屋 一	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授
副理事長	高橋 洋	株式会社防災都市計画研究所シニアコンサルタント
副理事長	田中 正博	全国手をつなぐ育成会連合会専務理事
副理事長	田村 圭子	新潟大学危機管理本部危機管理室教授
副理事長	丸谷 浩明	東北大学災害科学国際研究所副所長・教授
副理事長	横内 康行	東京都セルフセンター事務局長
理事	石川 淳哉	一般社団法人助けあいジャパン共同代表理事
理事	石塚 由江	防災士・防災アドバイザー
理事・会計	梅山 吾郎	S O M P O リスクマネジメント株式会社 B C M コンサルティング部
理事	岡橋 生幸	株式会社クオリティサポート代表取締役社長
理事	国崎 信江	株式会社危機管理教育研究所代表
理事	寿乃田 正人	東急株式会社 沿線生活創造事業部
理事	竹本 加良子	株式会社サイエンスクラフト代表取締役社長
理事	岸川 英樹	日本ミクニヤ株式会社執行役員東京支店長
理事	吉川 忠寛	株式会社防災都市計画研究所代表取締役所長
監事	浅野 幸子	減災と男女共同参画研修推進センター共同代表
監事	岡野谷 純	特定非営利活動法人日本ファーストエイドソサエティ代表理事
監事	中川 和之	株式会社時事通信社解説委員
事務局	上園 智美	日本ミクニヤ株式会社東京支店防災部

総会及び理事会等の開催

総会、理事会及び理事WGを開催し、協会の取り組み内容の検討等を実施した。

開催日	内容	場所
2021年5月14日	理事WG	zoom
2021年5月25日	理事WG	zoom
2021年6月22日	定例総会	zoom
2021年8月7日	理事WG	zoom
2021年11月7日	理事WG	釜石
2021年11月29日	理事WG	新橋
2022年3月16日	令和3年度第1回臨時理事会	zoom



新型コロナウイルス感染症により、集合での打合せ等の開催が難しい状況は続いていたが、オンライン会議の浸透によりzoomを手軽に使えるようになり、業務内容の確認等はスムーズに行えるようになった。

3月16日の臨時理事会では、事業の進行状況の報告と共に、社会貢献事業として福祉避難所マニュアルの無料公開について議論がされ、2022年度からの公開が決定された。また、コミュニティFM「サロン・ド・防災」への協賛についても議論がされ、満場一致で賛成となり、2022年度からの協賛が決定された。

またLINEWORKSを試行的に導入し、消防防災科学センター研修時の講師同士の事前調整や確認を行っていただいたが、LINEを使い慣れた方は導入に不便がなく、またスマホでの確認が容易であることからメールよりもやり取りが気楽に行えるようになった。

第4回公開シンポジウム

第4回公開シンポジウムを2021年6月26日（土）に開催した。新型コロナウイルス感染症対策のため、全てオンライン開催とした。参加者は95名であった。

浅野史郎会長が基調講演「障がい者の尊厳を守る」を、鍵屋代表理事が特別講演「福祉防災元年の風景」を行った。シンポジウム後半は、パネルディスカッション「福祉防災元年の課題と展望」が行われた。パネリストに松村隆様（長野いのちの電話の事務局長・前 墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム施設長）、長谷川みほ様（社会福祉法人海光会 理事長兼施設長）、村野淳子氏（本協会認定コーチ・別府市）を迎え、鍵屋一代表理事がコーディネーターを務めた。

また2020年度の協会活動報告および2021年度活動計画報告を行い、新しく誕生した7名の認定コーチの認定式等を行い、滞りなく会を終了した。

(一社)福祉防災コミュニティ協会 第4回公開シンポジウム

福祉防災元年

～避難確保、BCP、個別避難計画、福祉避難所～

日時
2021年6月26日（土）
受付13:00～

公開シンポジウム
13:30～17:00

場所
オンライン（Zoom）

参加用アドレスは、申込みされた方に、前日夕方までにメールでお送りいたします。

参加費
無料

定員
100名

資料
事後アンケートにお答えいただいた方に、メールでお送りいたします。

開会（13:30～13:35）
基調講演（13:35～14:20）
障がい者の尊厳を守る
浅野 史郎
本協会会長・株式会社土屋特別研究員・元宮城県知事

特別講演（14:20～15:05）
福祉防災元年の風景
鍵屋 一
本協会代表理事

休憩（15:05～15:15）
パネルディスカッション（15:15～16:45）
福祉防災元年の課題と展望
【パネリスト】
松村 隆 さん
長野いのちの電話の事務局長・
前 墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム施設長
長谷川 みほ さん
社会福祉法人海光会 理事長兼施設長
村野 淳子 さん
本協会認定コーチ・別府市

【コーディネーター】
鍵屋 一 本協会代表理事

お知らせ（16:45～17:00）
(括弧内の時間は、目安です。ご了承ください。)



← お申込みはこちらから。
協会ホームページでも受け付けております。
【協会ホームページ】 <http://fukushi-bousai.jp/index.html>
【申込み締切】2021年6月24日（木）
問合せメールアドレス fukushibousai@gmail.com

一般社団法人福祉防災コミュニティ協

第4回公開シンポジウム

日 時: 2021年6月26日(土) 13:30~17:00

Zoomのお名前を
申込み時のお名前にご変更ください

福祉防災コミュニティ協会



福祉防災元年の号砲が鳴る!

- 「避難準備・高齢者等避難情報」
⇒「高齢者等避難」
- 個別避難計画作成を市区町村の努力義務化
- 介護福祉事業所、障害福祉サービス事業所に3年以内にBCP作成を義務付け
- 福祉避難所ガイドライン改定
- 浸水被害の危険がある地区の開発規制等の流域治水関連法

高齢者施設での水害時の避難

1. 千曲川の状況 (ハザードマップ)
2. 事前の避難訓練
3. 台風19号と千曲川の氾濫
4. DMAT、自衛隊、消防隊の救助
5. 近隣福祉施設の被災状況
6. 事業再開へのアプローチ
7. 外來業務再開
8. 入所再開
9. 地域支援活動

介護施設における事業継続計画とは

～計画は命～

2021年6月26日
一般社団法人福祉防災コミュニティ協会
第4回公開シンポジウム
社会福祉法人海光会
介護老人福祉施設
長谷川みほ 海光園

地域を巻き込んだ支援体制の構築 別府市におけるインクルーシブ防災 “誰ひとり取り残さない防災”

インクルーシブ防災とは
2015年3月に仙台市で行われた国連防災世界会議では、障がい者や高齢者などをきき、あらゆる人の命と暮らしを守る「インクルーシブ防災」という新たな防災行動に関する国際的指針が採択された。この「仙台防災枠組み(2015-2030)」は、SDGsと並び2030年までに世界が目指す方向を示した文書である。

別府市防災局防災危機管理課 村野 淳子

別府市 村野

鍵屋 一

海光会 はせがわ

松村隆

2020年度に認定された認定コーディネーター

認定コーチ200024	葛西 由香さん
認定コーチ200025	星野 渉さん
認定コーチ200026	大月 浩靖さん
認定コーチ200027	安江 哲さん
認定コーチ200028	小野 英次郎さん
認定コーチ200029	山部 博則さん
認定コーチ200030	木村 知世子さん

12

研修の実施

主な研修の実施内容を以下に示す。

（１）一般財団法人消防防災科学センターからの受託研修

開催場所である7県の担当者から、市町村で災害時に重要な役割をする福祉関係者（福祉関係部局、社会福祉協議会、福祉施設の職員など）を対象に研修参加者の募集を行い、「福祉避難所の設置・運営に関する実務研修」を実施した。

研修の開催日・会場は、実施団体との調整により次表のように決定した。

今年度は7県で研修を実施したが、新型コロナの影響もあり大勢の参加者を集めることが難しかったため、参加者は453名と全体的に少ない状況であった（同様の研修を行った2019年度は5県で450名の参加者、2018年度は3県で263名の参加者であった）。

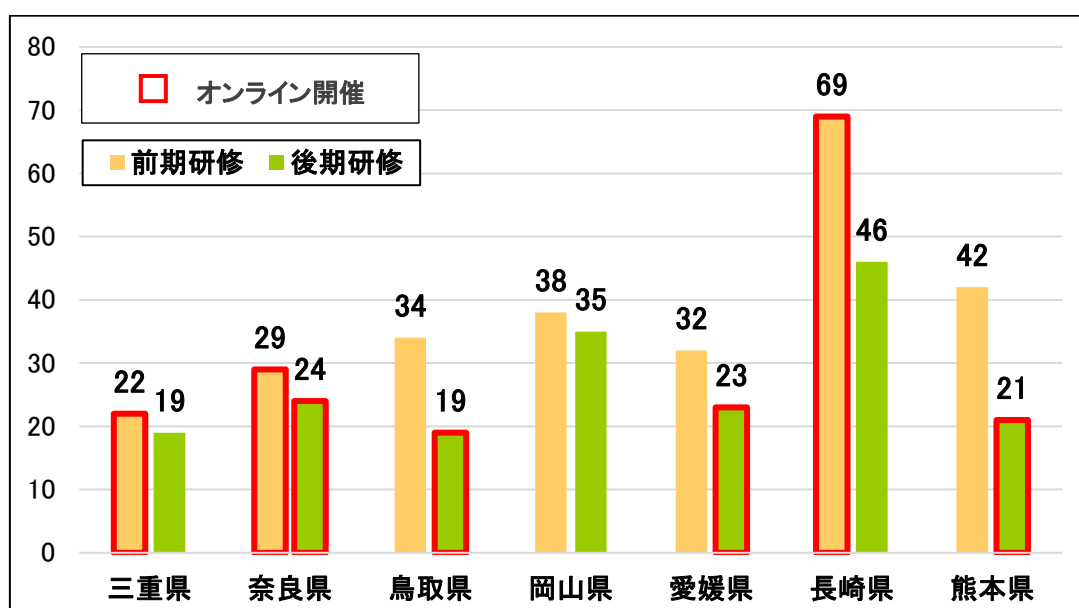
また新型コロナ対応のため、県の担当者が研修途中で変更になるケースがいくつか発生し、準備段階のコミュニケーションに例年より時間を要した。

研修内容	日時	場所	人数	講師
三重県前期	2021/9/14	オンライン開催 サポート：岡野谷	22	鍵屋上級コーチ 高橋上級コーチ
長崎県前期	2021/9/15	オンライン開催 サポート：上園	69	横内上級コーチ 石塚認定コーチ
奈良県前期	2021/10/18	オンライン開催 サポート：上園	29	湯井上級コーチ 前川認定コーチ
岡山県前期	2021/10/20	きらめきプラザ401会議室	38	高橋上級コーチ 上園上級コーチ
三重県後期	2021/10/26	三重県社会福祉会館大会 議室	19	湯井上級コーチ 前川認定コーチ
鳥取県前期	2021/11/19	倉吉体育文化会館	34	高橋上級コーチ 中井認定コーチ
奈良県後期	2021/11/25	オンライン開催 サポート：上園	24	湯井上級コーチ 前川認定コーチ
岡山県後期	2021/11/26	きらめきプラザ401会議室	35	鍵屋上級コーチ 中井認定コーチ 前川認定コーチ
愛媛県前期	2021/11/29	県庁第一別館3階 第3・第5会議室	32	高橋上級コーチ 湯井上級コーチ

研修内容	日時	場所	人数	講師
熊本県前期	2021/12/7	県庁行政棟本館地下大会議室	42	湯井上級コーチ 上園上級コーチ
長崎県後期	2022/1/11	長崎県庁大会議室	46	横内上級コーチ 上園上級コーチ
鳥取県後期	2022/1/14	オンライン開催 サポート：上園	19	高橋上級コーチ 中井認定コーチ
熊本県後期	2022/1/19	オンライン開催 サポート：上園	21	鍵屋上級コーチ 湯井上級コーチ
愛媛県後期	2022/2/4	オンライン開催 サポート：上園	23	高橋上級コーチ 湯井上級コーチ
合計			453	OJTメンバー

新型コロナウイルス感染症対策のため、各県担当者と打合せの上、受付での参加者の健康状況の確認・手指消毒・換気の実施等を行った。

新型コロナの感染拡大状況から、オンライン研修へ切り替え希望が寄せられたりした。オンライン研修については、ZoomやWebexを使用して7つの研修を行った。県担当者がオンライン研修に慣れていなかったり事前打合せ希望があったりした場合は、研修前に事務局および講師との事前オンライン打合せを行い、研修の流れの説明やブレイクアウトセッション機能の使い方（実演も含める）説明等を行った。参加者には、事前に「資料：WEB研修受講にあたってご確認いただきたいこと」を配布し、受講環境や準備いただきたいものについて確認を行っていただいた。オンラインでの開催については、画面表示の切り替えやブレイクアウトセッションの設定等が必要になることから、オンライン運営の補助が行える上級コーチ・認定コーチを追加で配置した。



前期研修の前半部分の講義では、過去の大災害と教訓、福祉避難所設置・運営の現状と課題、法制度の解説を実施した。次に、演習として災害エスノグラフィを使ったグループワークを行い、その後、福祉避難所マニュアルの作成方法をひな型で説明した。

時間割	タイトル	前期研修内容
13:00～ 13:30	受付 事務連絡等	受付 開始前に、事務連絡・事前アンケート記入
13:30～ 14:15	大災害及び福祉避難所の状況	【講義】 (1)過去の大災害と教訓 (2)福祉避難所設置・運営の現状と課題
14:15～ 14:40	災害と福祉関係者のイメージづくり	【演習】 (3)被災者の災害エスノグラフィを読み、課題や教訓を抽出しつつイメージづくりを行う
14:40～ 14:55	休憩	
14:55～ 16:10	グループワーク	【演習】 (4)参加者4人ずつのグループワーク（ワールドカフェ）で、災害及び福祉避難所イメージの強化とアイデア出し (5)グループワークの成果紹介
16:10～ 17:00	マニュアル作成方法説明	【講義】 (6)福祉避難所マニュアルの作成方法をひな型で解説 ※ 後日マニュアルひな型を電子データで交付 (7)新型コロナウイルス対応をサポートブックで解説
1～2か月間	各組織でマニュアルの素案作成 （新型コロナウイルス対応含む）	(1)職員アンケートにより、福祉関係者等のリスク、災害時の不安、参集可能性、自助の状況等を把握 (2)職員のグループワーク等で議論し、ひな型の自施設特有部分を埋め、改良 (3)福祉避難所マニュアル素案を作成 ※ ここで作成したマニュアルを後期に持参

前期研修後、県を通じて参加者にマニュアルひな型データを配布し、各組織でマニュアルを作成いただいた。また後期研修の声掛けの際に、マニュアル作成の進捗に関する問いかけを実施していただき、マニュアル作成の推進へとつなげた。

後期研修では、前期研修のおさらいとマニュアル作成の重要ポイント説明の講義を行い、演習でのグループワークや福祉避難所スタートボックスの趣旨・内容等の解説、福祉避難所スタートボックスを活用した実動訓練を行った。

オンラインで後期研修を行う際、スタートボックスを見てもらったり、訓練の実演を行ったりすることが難しかったため、福祉避難所開設のグループワークを多めに行った。

時間割	タイトル	後期研修内容
13:00～ 13:30	受付 事務連絡等	受付 開始直前に、事務連絡等
13:30～ 14:00	重要ポイントの解説	【講義】 (1)前期研修のおさらい (2)福祉避難所マニュアル作成の重要ポイント
14:00～ 15:15	グループワーク	【演習】 (3)参加者が福祉避難所、感染症対策のグループワーク（ブレインストーミング）と講師の助言
15:15～ 15:30	休憩	
15:30～ 16:20	初動対応とマニュアルのレベルアップ、継続性	【講義】 (4)福祉避難所スタートボックス解説 (5)福祉避難所マニュアルのレベルアップ事例紹介 (6)今後の取組み、訓練、検証、見直し継続への展開
16:20～ 16:30	質疑応答	【講義】 (7)質疑を受け、講師が応答 (8)各自の福祉マニュアル第1版が完成 (9)振り返り、アンケート記入

次ページから、各県で実施した研修状況をまとめた。

① 三重県

三重県では子ども・福祉部子ども・福祉総務課と調整を行った結果、前期研修はZoomによるオンライン開催とし、後期は集合開催とした。

前期研修では、県から要望があり、県担当者・参加者を含めた事前接続テストを行い、カメラ・マイクの環境確認、Zoomの使い方等を確認した。当日はネット環境によりPC 1台で複数名が参加されたり、マイクやカメラが利用できなかったり、研修への出入りがあったりと、十分な受講環境が確保できない方もあったが、行政職員側に知っておいてもらいたいことや行政側に必要な視点を強調して説明を行った。

後期研修では、他自治体での事例等を丁寧に説明したため、個別避難計画と福祉避難所の関係性について、福祉避難所でのペットの扱い方について、の質問が寄せられた。

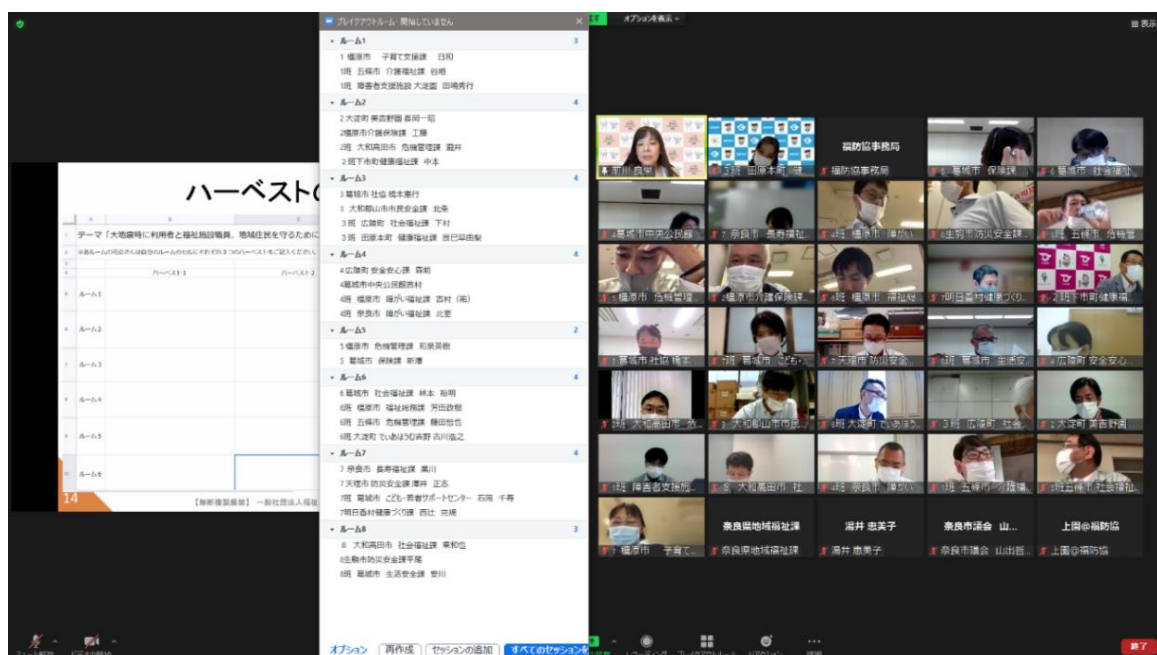


三重県 後期研修の様子

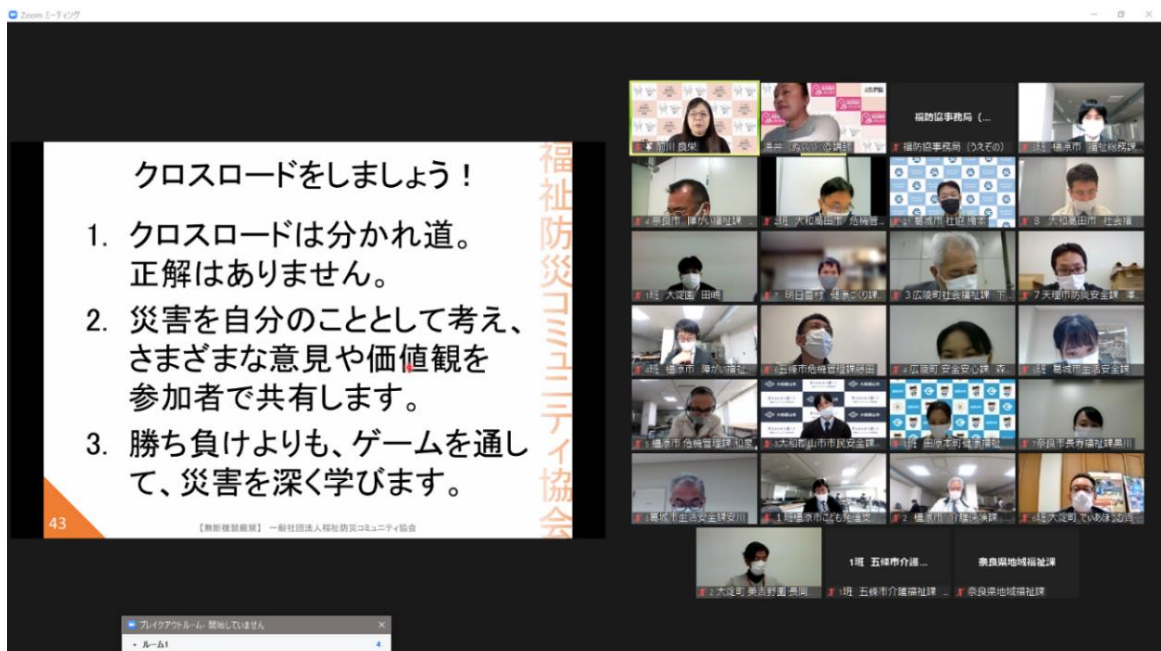
② 奈良県

奈良県では福祉医療部地域福祉課地域福祉推進係と調整を行い、集合研修を検討していたが、新型コロナの感染拡大により前期研修・後期研修ともにZoomによるオンライン開催とした。県から要望があり、研修前に県担当者と当会事務局が参加し、事前接続テストを含めたオンライン事前打合せを実施し、カメラ・マイクの環境確認、Zoomの使い方、研修の内容・進め方等に関する質問事項に回答した。

前期研修のグループワークでは、googleのスプレッドシートを使い、各グループで出た意見の取りまとめを行ってもらったが、ほぼ問題なく取りまとめをすることができた。



奈良県 前期研修の様子



奈良県 後期研修の様子

③ 岡山県

岡山県では保健福祉部保健福祉課施策推進班と調整を行った結果、前期研修・後期研修ともに集合開催とした。新型コロナ対策として、場内のグループの間隔を広めにとると共に、換気を常に行うようにした。

前期研修のグループワークでは、活発な意見交換が行われ多様な意見交換が行われていた。

後期研修では、殆どの参加者がマニュアルを作成して参加されていたため、コーチが説明するマニュアルポイントについて多くの参加者が一生懸命メモを取られていたのが印象的であった。グループワークでも話が弾み、活発に意見交換されていた。



岡山県 前期研修の様子



岡山県 後期研修の様子

④ 鳥取県

鳥取県では危機管理局危機管理政策課企画調整担当係と調整を行った結果、前期研修は集合開催とし、後期はZoomによるオンライン開催とした。

参加者の半数以上が福祉避難施設職員であったため、前期研修では福祉施設の事例などを交え講義を行い、グループワークでは鳥取ならではの課題が多く出された。

後期研修では、県庁から提供されたZoomでブレイクアウトルームが利用できないことが当日判明したが、参加者が少なく1画面に入る人数であったため、急遽、参加者全員で1グループとして意見交換を行った。

福祉避難所マニュアルのレベルアップ意見交換では、同一地域の施設・社協・行政の意思疎通や今後の連携に繋がる対話が活発に行われ、施設の実情や改善策を全員で共有できたことは非常に大きかった。



鳥取県 前期研修の様子



鳥取県 後期研修の様子

⑤ 愛媛県

愛媛県では県民環境部防災局防災危機管理課防災訓練係と調整を行った結果、前期研修は集合開催とし、後期はZoomによるオンライン開催とした。

前期研修のワークショップは活発に行われ、その中で福祉施設職員の視点が参加者に上手く共有された。

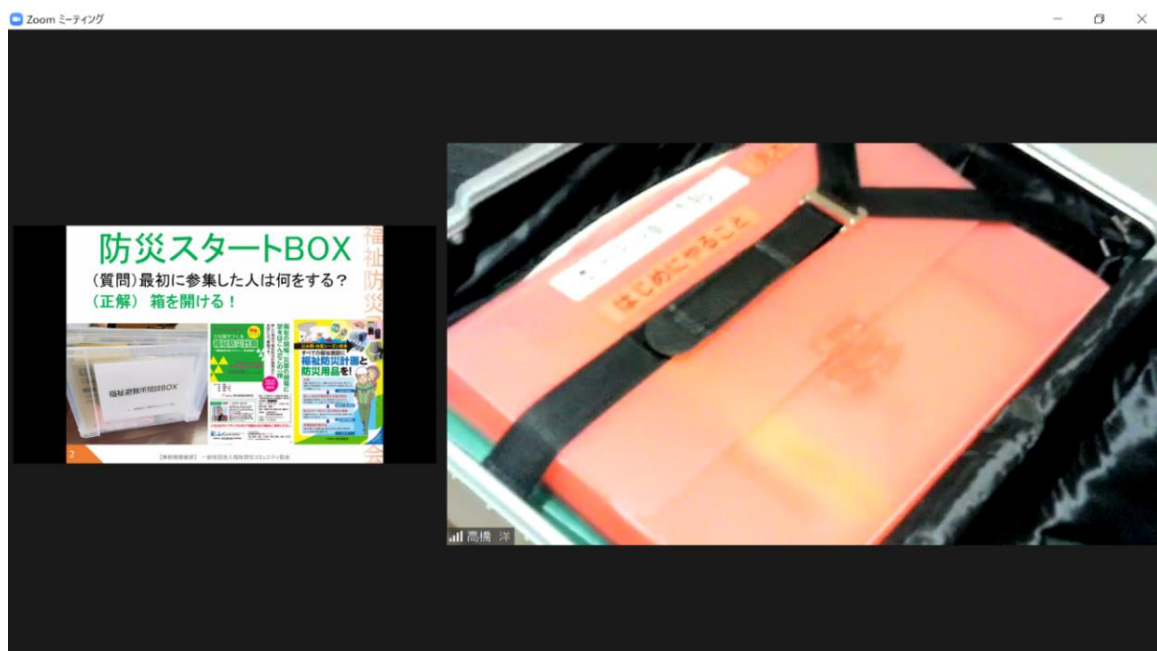
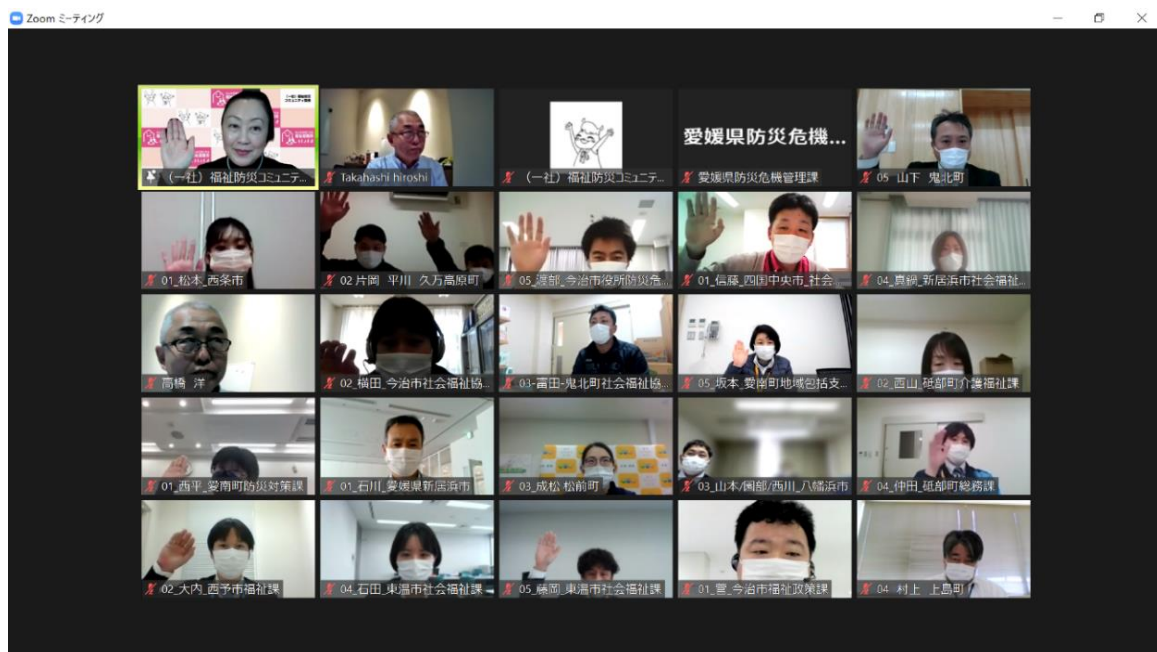
後期研修は、県から要望があり研修前に県担当者と当会事務局、参加者が参加し、事前接続テストを含めたオンライン事前打合せを実施したが、参加者は少なかった。当日の参加者は、1画面に入る人数であったため、参加者全員で意見交換を行った。



愛媛県 前期研修の様子



愛媛県 後期研修の様子(1)



愛媛県 後期研修の様子(2)

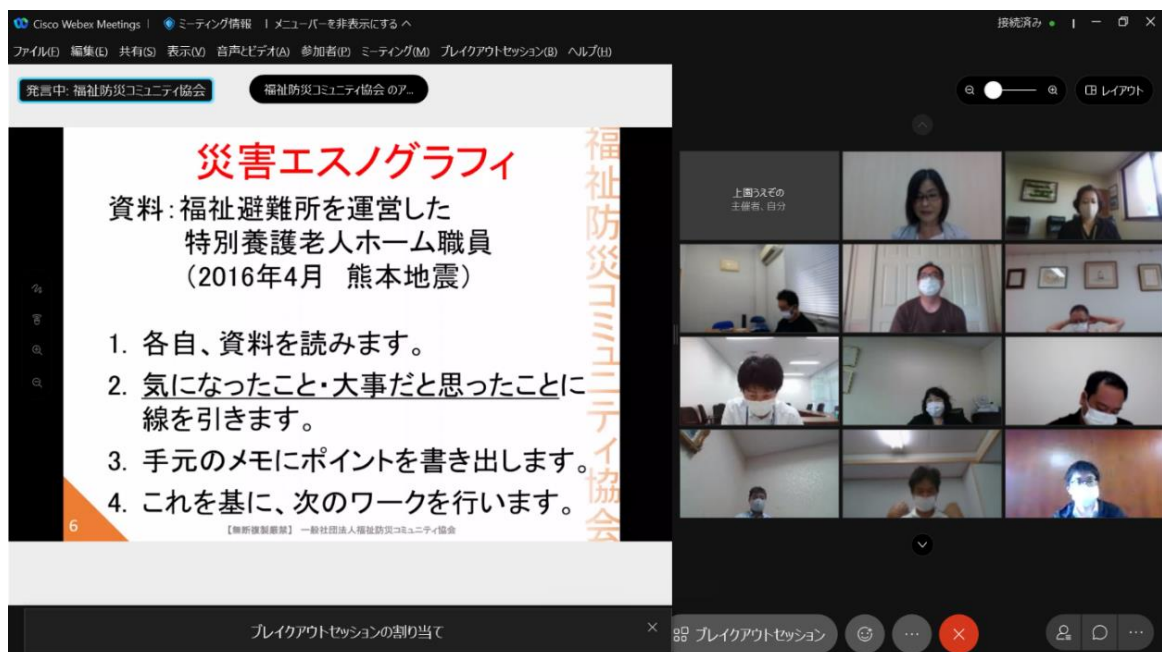
⑥ 長崎県

長崎県では福祉保健部福祉保健課地域福祉班と調整を行った結果、前期研修はWebexによるオンライン開催とし、後期は集合開催とした。

前期研修は9月15日と台風時期と重なったため、台風対応のため急遽欠席される自治体もあった。後期研修では、新型コロナの感染拡大に伴う欠席が多く、前期参加者の2/3の参加となった。

後期研修については、参加者ほぼ全員がマニュアルを持参されていたが、改良点や質問は全体を通して1つしか出ず、作成がどの程度進んだかは疑問が残った。

コロナの再拡大によるものか、グループ内での話し合いも普段の研修会よりも控え目であったが、熱心に頷きながら話を聞いてくださる方や、スタートボックスにかなり興味を持ってご覧になる方もいらっしゃった。



長崎県 前期研修の様子



長崎県 後期研修の様子

⑦ 熊本県

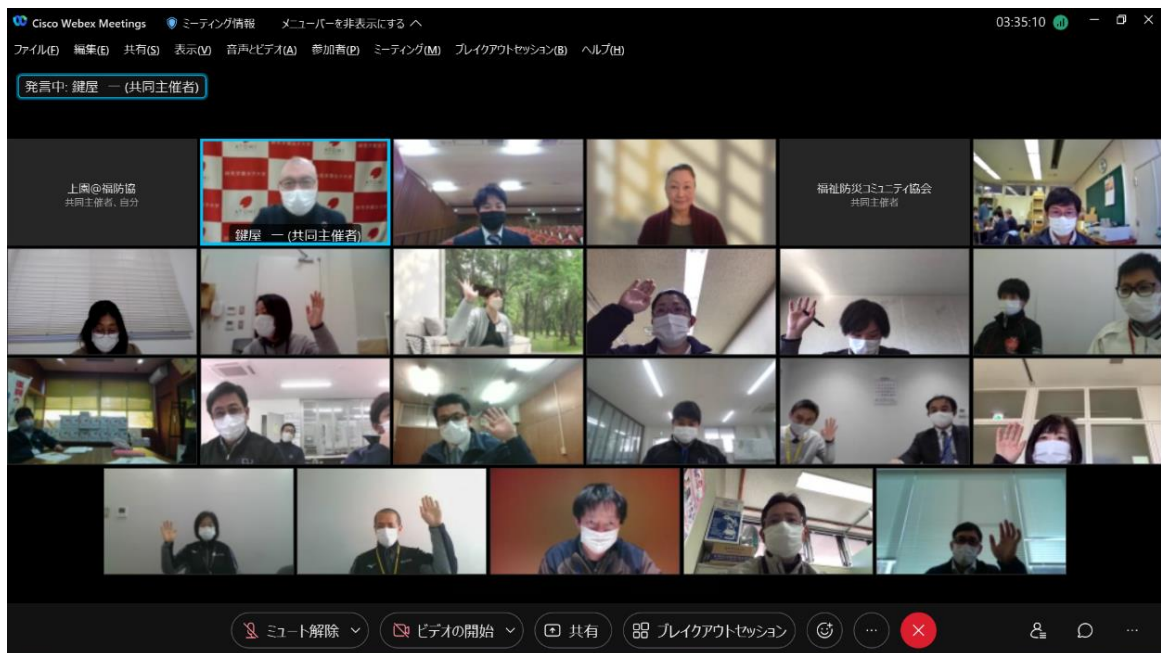
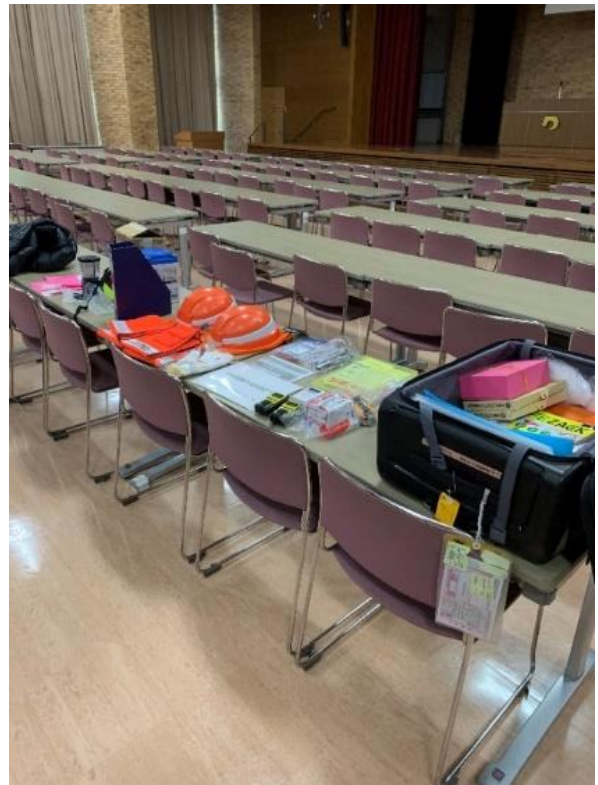
熊本県では福祉医療部地域福祉課 地域福祉推進係と調整を行った結果、前期研修は集合開催とし、後期はZoomによるオンライン開催とした。参加者はすべて自治体職員であり、現場の実情を共有するためグループ分けを工夫し、熊本地震時の被災自治体が各グループに配置できるようにした。

前期研修では、新型コロナ対策として場内のグループの間隔を広めにとると共に、休憩時間の手洗い・消毒等の実施を促した。グループ内での話し合いは控え目であったが、

後期研修は直前にオンライン開催に決まったことと、県担当者がオンライン研修に慣れていないことから、講師とオンライン運営補助の2名が現地入りし、研修を実施した。



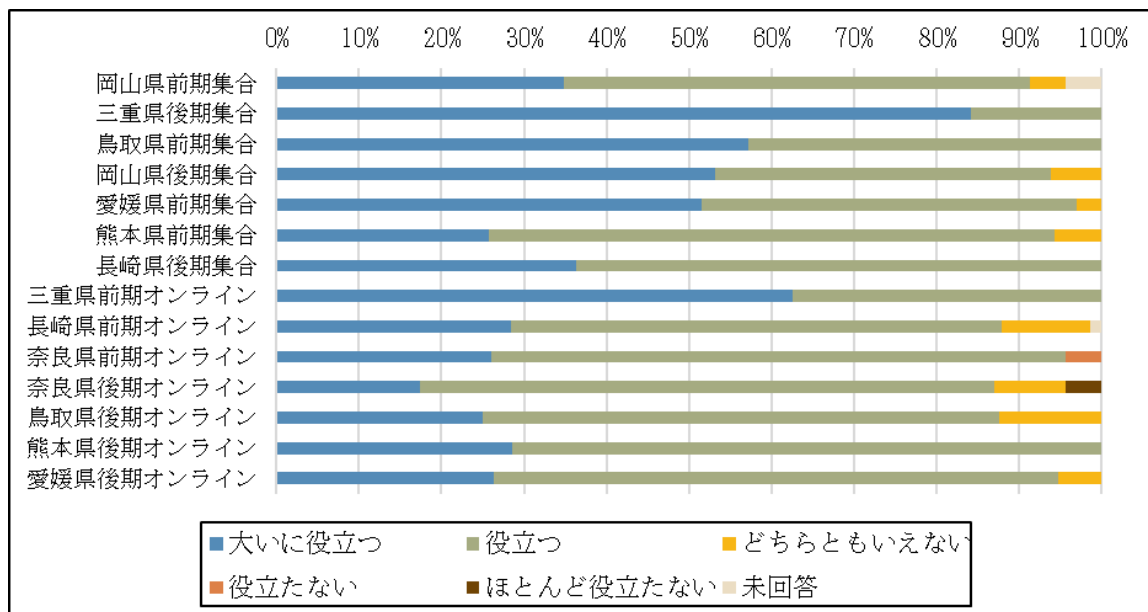
熊本県 前期研修の様子



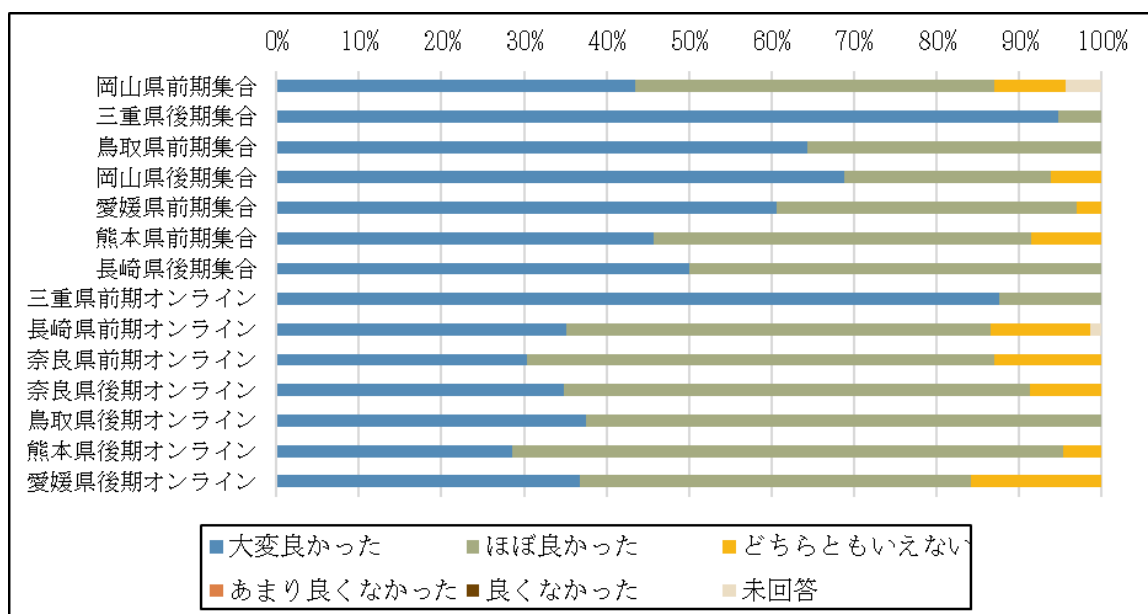
熊本県 後期研修の様子

7県でのアンケート結果を、以下に示す。

消防防災科学センター作成のアンケート内容のうち、3. (3) の「4) 今後役立ちますか」、「5) 研修を受講してよかったですか」の項目を分析した。



消防防災科学センター研修アンケート 3. (3) 4) 今後役に立ちますか



消防防災科学センター研修アンケート 3. (3) 5) 研修を受講してよかったですか

この結果、研修の前期・後期による差は明確には見られなかったが、集合研修・オンライン研修については集合研修の方が「大いに役立つ」「大変良かった」を占める割合が高い傾向があることが分かった。また三重県では前期研修がオンライン、後期研修が集合で行われたが、いずれも秀でて高い満足度であった。この明確な理由については不明であるが、三重県は2018年度から毎年、本研修に参加されていることから、これが理由の1つではないかと考える。

消防防災科学センター 研修実施場所・回数まとめ

実施場所	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	研修回数
神奈川県			●			1回
富山県	●					1回
石川県	●				○	1回
岐阜県					○	—
静岡県		●				1回
三重県	●	●	●	●	○	4回
奈良県				●		1回
和歌山県		●	●			2回
鳥取県				●	○	1回
島根県			●		○	1回
岡山県			●	●		2回
山口県		●				1回
愛媛県				●		1回
長崎県				●		1回
熊本県				●		1回
大分県					○	—
鹿児島県					○	—
	3県	4件	5県	7県	7県	

今年度の研修でも、当協会が日頃から使用している研修前後アンケートを行った。自由記載の「本研修で得られたもの」は、関係機関との話し合いによる気づきに関する意見が多かった。

今回はオンライン研修が半数であり、アンケートは終了後1週間を目途に県担当者を通じて収集したが、半数しか集まらない場合もあった。この改善策としてウェブアンケートを検討したが、自治体職員はアクセスが難しいという意見から、実施には至らなかった。

【関係機関との話し合いによる気づき】

- ・ 行政、福祉施設の方の不安や思いを感じることができ良かった。また、社協としても共に連携・協力・情報の共有の必要性を感じた。
- ・ 施設の方と実際に話し、お互いに共通理解をもっておくことが大切だと思った。地域住民に福祉避難所について周知するとともに、住民、施設、行政の間で顔の見える関係を作る役目を行政が担っていると感じた。
- ・ 行政の方との集合研修は新鮮でした。多様な方向から、事例を捉えることができ、大変皆さんの意見は参考になりました。
- ・ 自分は役所職員だが、福祉施設の現場で戦っている人の意識の高さが伝わって来た。

【関係者間での連携の必要性】

- ・ 災害時の福祉避難所を有効にする役所や地域との連絡体制の重要性を認識しました。
- ・ 個人、職場、法人、地域、行政それぞれが単独でできること連携によってできること等を考えながら積み上げていく重要性について再認識できた。
- ・ 様々な関係機関や団体、住民への周知や協力体制の準備が必要だと思いました。

【マニュアルや訓練の必要性】

- ・ マニュアル作成の必要性を強く感じました。
- ・ 大がかりな防災訓練は主催者も参加者も負担なので、どんな小さいことでも平常時からとり組み、ふだんの生活に防災意識を取り入れていくことが今の災害が多い世の中、大切なことだと思いました。
- ・ 映像を視て自分の無力さを痛感した。少しでも備えと訓練の継続が必要と感じた。

【その他】

- ・ 災害により、生命を守ることだけでなく心を守ることも重要だと思った。自分に余裕を持った気持ちが必要。そのための自信をつける学習や経験が大切だと感じた。
- ・ 福祉避難所は一時的に避難される場所で、落ち着いたら地区の公的避難所へ移動するものとどこか軽く考えていたので、研修を受け事例を読んで、正直戸惑いました。この研修は、法人の理事長にも行うべきだと思います（お金もかかるので）。

(2) 千葉県市原市福祉避難所開設・運営マニュアル作成及び訓練研修

千葉県市原市からの委託で、福祉避難所開設・運営マニュアル作成および訓練の研修を実施した。市内で指定されている福祉避難所30施設の施設関係者を対象として、延べ参加人数は、118人であった。

本研修は2020年10月に受注し、当初は2021年3月末までを契約期間としていたが、新型コロナウイルス感染症の流行により訓練の実施が困難となったため、契約期間を1年延長し2022年3月までを契約期間とすることで研修を完了することができた。

全体の実施内容は、以下の通りである。

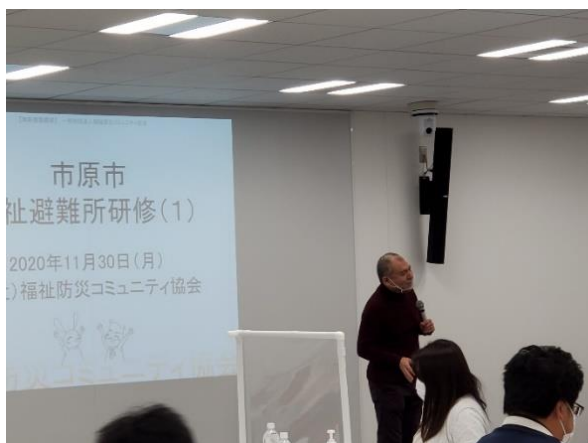
- ・ 福祉避難所開設・運営マニュアル作成研修の実施
- ・ 福祉避難所訓練支援
- ・ マニュアル点検・修正
- ・ 災害時支援

このうち災害時支援については、契約期間内においては災害による被災により福祉避難所を開設する必要はなかったため、支援は行っていない。

研修内容	日時	場所	人数	講師
福祉避難所開設・運営マニュアル作成研修 前期研修	2020/11/30 (月) 13:30-17:00	市原市役所 〒290-8501 市原市国分寺台中央一丁目1番地1	40	鍵屋上級コーチ 石塚認定コーチ 岡野谷認定コーチ
福祉避難所開設・運営マニュアル作成研修 後期研修	2021/1/21 (木) 13:30-16:30	市原市役所 〒290-8501 市原市国分寺台中央一丁目1番地1	29	鍵屋上級コーチ 横内上級コーチ 岡野谷認定コーチ
福祉避難所訓練	2021/6/2 (水) 13:30-16:00	市原特別支援学校 〒290-0011 市原市能満1519-5	49	鍵屋上級コーチ 高橋上級コーチ 横内上級コーチ 上園上級コーチ 石塚認定コーチ 松原認定コーチ
マニュアル点検・修正	2021/6/9 (水) ～2022/2/16 (水)	—	—	高橋上級コーチ
合計			118	OJTメンバー

① 福祉避難所開設・運営マニュアル作成研修（講師によるコメント）

- ・ 市原市と福祉避難所協定を結んでいる福祉施設等すべて（市原看護学校を除く）が研修に参加され、災害対策にあたる福祉部職員の出席もあり、市原市が福祉避難所の開設運営に向けて本腰を入れて取り組む姿勢を感じた。
- ・ コロナ禍においても、福祉施設等の職員が一堂に会し顔を合わせたコミュニケーションを図れた研修には、大きな意義があると思う。今後予定されている後期研修、福祉避難所開設・運営訓練を通して、さらに福祉施設等間のネットワークを構築し、災害時には福祉避難所の横断的連携ができる市原市となっていきたい。
- ・ ワールドカフェでは、ラウンドを重ねるごとに会話も広がった。ハーベストづくりにやや苦戦する場面も見かけられたが、協会スタッフがフォローに駆けつけると、耳を傾けられ真剣に取り組む姿が印象的であった。
- ・ 宿題としていた福祉避難所マニュアル作成であるが、実際に作成してきたのは僅か3人程度であった。このため、工夫した点や悩んだ点等の意見交換が出来ず、マニュアルに手を入れてほしい注意点を一方的に話すことになってしまった。研修に参加することに意義がある、と考えておられる様子が感じられ、残念であった。
- ・ 一週間後迄にやるべき事、一年間でやる事には、それなりに記載されていたが、この様子のままでは本当に自施設等の福祉避難所マニュアルが出来るのか心配である。次回の訓練で、参加者がどの程度関心を示し意識が変わってくれるか、期待したいところである。

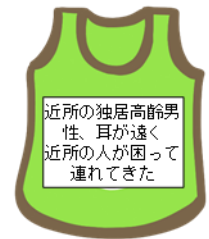


マニュアル作成研修の様子

② 福祉避難所訓練

事前打合せ内容を踏まえ作成した実施概要は、以下の通りである。

- 福祉避難所を開設する必要がある大規模地震が発生。市原市内は震度7、ライフラインは全てダウン（電気、ガス、水道、電話、インターネット）。
- 「近所のお年寄りが避難して来てしまった。福祉避難所を開設するしかない。（要配慮の避難者から受け入れの要望あり）」という状況。その後、市から福祉避難所の開設指示がある。
- 訓練参加者を2班に分け、施設運営者役・避難者役とする。1時間程度、訓練を実施したら、役を入れ替えて同様な訓練を行う。
- 施設運営者役は「ある福祉施設の運営メンバー」となり、福祉避難所開設ボックス（福防協が1セット準備）等を使いながら、マニュアルひな型に沿って「3. 福祉避難所の開設」を訓練する。
- 避難者役は避難者状況が書かれたビブス（例：右図）を着用し、そこに書いてある避難者役を演じる。また避難者役として訓練に参加しつつ、訓練者等を観察して改善点・感想、各施設のマニュアルの修正点等をメモしておく。
- 講師は訓練の進め方の説明を行い、解説・質疑応答により参加者の疑問等に答える。訓練の主体は参加者自身であり、訓練中は基本的に見守り（動きが止まっている場合はフォロー程度）とする。
- 市原市危機管理課（1～2名）に、市原市（災害対策本部から派遣された連絡員）役として参加いただく。役割は、福祉避難所の開設指示・支援品の持ち込み・福祉避難所から市への報告を受ける等（詳細はスケジュールに明記）。
- 市原特支および市原市（防災担当、福祉の所管課担当）職員は、訓練参加者として班に割り振り参加。
- 福防協関係者は、避難所でキーになる避難者として参加。



時 間	タイトル	内 容
13 : 00～13 : 30	受付	受付
13 : 30～13 : 33	開会	開会あいさつ
13 : 33～13 : 40	本日の流れ説明	A 班→B 班の順で施設運営者として避難所運営を行い、B 班→A 班の順に避難者として訓練を観察する。
13 : 40～14 : 25	訓練 1 回目	A 班：施設運営者、B 班：避難者
14 : 25～14 : 40	解説・質疑応答	ポイントとなる部分について解説する。時間があれば質疑応答。
14 : 40～14 : 50	休憩	手指消毒、必要に応じて器材も消毒。
14 : 50～15 : 35	訓練 2 回目	A 班：避難者、B 班：施設運営者
15 : 35～15 : 50	解説・質疑応答	1 回目同様に行う。
15 : 50～16 : 00	まとめ	AAR、訓練全体に対する講評、各施設で行う場合のアドバイスなどを行う。
16 : 00	閉会	閉会あいさつ

会場準備、準備資器材等



開会、本日の流れ説明



施設運営者 福祉避難所開設準備



避難者 福祉避難所受付



福祉避難所運営訓練



振り返り



【参加者のコメント：運営リーダー役のメンバー】

- リーダーなので出来るだけ冷静にしたいと思ったが、訓練にも関わらず内心はとてもヒヤヒヤしていた。
- 視覚障害や高齢、小さな赤ちゃんなどいろんな人を想定しておかないと、迷う場面が多いと感じた。
- ずっとパニックになりながら、行動ひとつひとつに不安を持ったまま進んでいったが、勉強になった。
- やはり個人個人のケアが重要であり、課題であると感じた。

【参加者のコメント：訓練 1 回目】

- スピード感がなく進んでいた印象があった。受付で時間がかかっていたが、妊婦さんなど、動けない人のケアにもう少し気を使うべきだと感じた。本番同様の危機感をもって取り組まなければいけないと感じた。
- 避難所運営側は決まった役割があるのだから、もう少し上手く進行できたらよかった。簡易トイレや段ボールベッドの組み立て方が体験できたので良かったと思う。
- 避難者はケースバイケースであり、もっと個人ケアに力を入れるのが重要だと感じた。
- 高校生役で避難してきたが、周りはずっと動き回っており気持ちが落ち着かなかった。
- 目が見えない役で避難してきたが、周りの状況が把握できず、ざわついていたので恐怖感があった。声掛けなどをもらって、安心したかった。

- ビブスの色から避難所運営側メンバーはわかったが、その中で誰がリーダーかわからず声もかけにくかったため、避難者から見ても運営側メンバーの役割がわかるものがあると良いと思った。
- 盲導犬と一緒に避難されてきた方は、どう対処するのが良いのか疑問があった。
- →鍵屋）できれば体育館内の隅っこなどを使用できると良い。
- 最初は受付が1番混乱している中で、後々のフォローやケアのためにも、いつ避難してきた人なのか番号を振った方が良いのではないかと思った。

【参加者のコメント：訓練2回目】

- 避難所運営側であったが、事項すべてをリーダーへ報告していたため、リーダーは対応するのが大変そうであった。役割分担が事前に決まっているため、各担当の代表を決めてそこで判断したり、事項を取りまとめてリーダーに報告したりしても良いかもしれない。
- 建物の点検や準備が終わらないと中に入れないのはわかるが、待ち時間が長いように感じた。
- パーテーションを出したり、決まったことをこなしたりしていく中でも、次々と対応事項が発生し、追われていた。大変だった。
- 受付時に避難者に番号を振っていたが、実際に避難している場所(ブルーシートやテント)にも番号を書く・反映させるなどしたら、より個人の把握に活かすことができると思った。

今回は、訓練終了後にAAR（After Action Review）を使い振り返りを行った。これにより、参加者に計画と実施した内容のずれを可視化してもらい原因と対策を考えてもらい、訓練をやりっぱなしにするのではなく次に活かしていけるようにした。

福祉避難所開設・運営マニュアルを作成した後の訓練であるため、基本的な動き等のイメージを持つことは出来ていたが、実際に動いてみると動けなかったことを実感してもらうことができた。また訓練を2回行うことで、着実に経験が積めることも実感してもらうことができた。

各施設の事前準備や経験の不足を再認識すると共に、避難所開設では特に受付の重要性を体感していただくことができたため、これがマニュアルのバージョンアップにつながるよう声掛けを行った。

③ マニュアル点検・修正

各施設で作成いただいた福祉避難所開設・運営マニュアルについては、下記の流れで点検を行った。

- (ア) 5月19日の後期研修、6月2日の訓練研修等で気付いた点や修正点について、各施設で福祉避難所開設・運営マニュアルを修正・更新。
- (イ) 提出期限を2021年6月30日（水）として、最新の福祉避難所開設・運営マニュアルを、（一社）福祉防災コミュニティ協会へ電子データ（その場合はワードデータかPDFデータで）もしくは印刷データを郵送いただく。
- (ウ) お送りいただいた福祉避難所開設・運営マニュアルは、（一社）福祉防災コミュニティ協会の上級コーチが点検を行い、「全体傾向等を分析したコメント」および「個別のフィードバック用コメント」を作成。8月31日までに、福祉避難所開設・運営マニュアルを提出いただいた各施設へメールで点検コメントを返送。
- (エ) 各施設はコメントを確認し、修正・更新作業を行う。その後、完成したマニュアルデータは市原市役所へ提出する。

点検による講評を次頁に示す。各施設には、全体講評と総括評価表と共に個別の評価表を返送し、コメント等を確認した上でマニュアルの修正・更新作業を実施してもらった。また、修正・更新作業が終わったマニュアル（ワードデータ）は、市原市役所危機管理課への提出が求められた。

2021年8月29日

講評：市原市社会福祉法人等「福祉避難所運営・開設マニュアル」

福祉防災コミュニティ協会 副理事長

(福祉防災上級コーチ) 高橋 洋

講習参加、訓練参加、マニュアル作成等、それぞれお疲れさまでした。

このたびは、みなさまが作成されたマニュアルを拝見し、そこから私が感じた事、気が付いたこと、提案を差し上げることについての、全般的事柄を書き記しました。

(個別なことは、それぞれにお配りするシートをご覧ください)

大事なこと

- 1、施設を運営される皆様の安全なくして、利用者・避難者は守れません。
- 2、運営されている社会福祉施設等の事業継続を無視して、福祉避難所はできません。
- 3、危機管理の対応で「想定外」は言い訳です。いろいろな支障事項に備えましょう。

注意事項

可能な範囲で地形図、航空写真、ストリートビューを参考に、各施設の災害リスクを考えました。現地踏査を行っていませんので、間違った想定になっている場合も有ります。その点は、あらかじめご理解をお願いします。

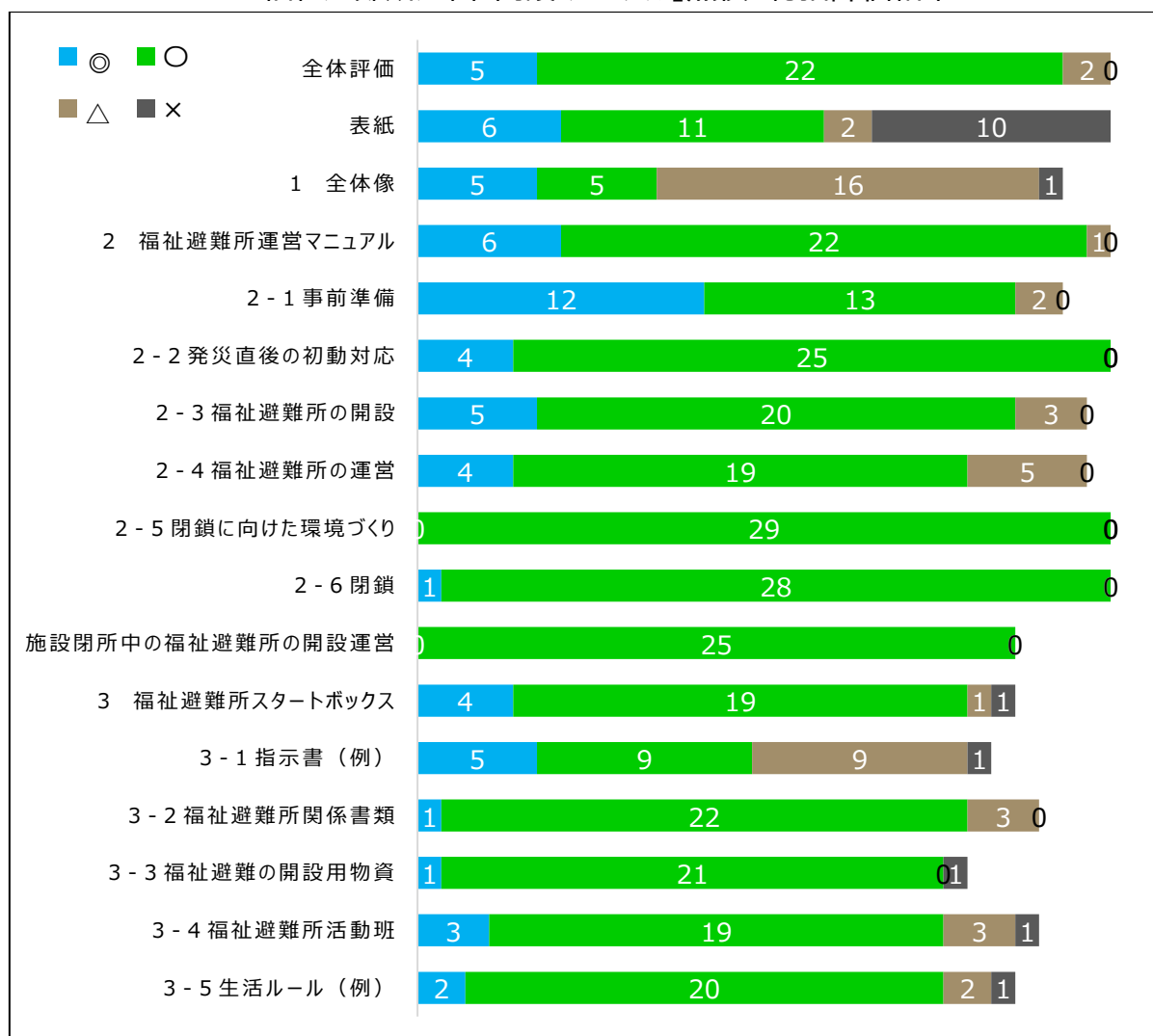
本流に支流が合流する地点の立地では、逆流（バックウオーター）による水害リスクが、自治体等が公表している水害ハザードマップより高まります。逆流は、排水路、用水路、下水においても同じリスクがありますので、考慮が必要です。

その他

現段階での個別評価は、あまり気にしないでください。今後の改善に向けて事前準備の実行、話し合いや手順確認などを行ない、できるだけ総合的訓練に進みましょう。

参考文献：できれば「ひな型でつくる福祉防災計画 ～避難確保計画から BCP、福祉避難所～」の「第4章 福祉避難所」を参照してください。 以上。

「福祉避難所運営・開設マニュアル」点検 総括評価結果



今回は、福祉避難所開設・運営マニュアルを作成する研修を実施したのちに、特別支援学校を会場に福祉避難所開設・運営訓練を実施するという一連の流れで研修を行ったが、これは極めて重要な事例である。特に、福祉避難所で重要な問題となる停電対策、トイレ対策について、市原市役所の関係者と福祉避難所運営を行う参加者が訓練を通して共に確認し、考える時間を持てたことは、大変有意義であった。今回の事例は、全国で広く展開していくきっかけとなる素晴らしい取り組みと言える。

今後は、各施設のマニュアルを元に、施設職員が施設設備を使って訓練を行っていくことが求められる。その際、市原市がしっかり支援していく事で、災害時に自発的に動き、多くの人を支援することができる福祉避難所へバージョンアップすることができる。そのため、引き続き市原市が、地域の防災力向上のために、研修や訓練の企画・実施を行っていただくことを依頼した。

(3) 東京ガス利用者に向けたBCPオンデマンド研修

東京ガス株式会社より、利用者（福祉事業者）に向けたBCPオンデマンド研修について依頼があり、動画コンテンツを作成した。

まず「最新版！福祉事業者のBCP作成講座」と題した、およそ1時間半のBCP作成説明動画（ワーク等は含まず）を作成し、東京ガス株式会社の配信システムで配信、利用者は何度でも見られるよう配信された。これが好評とのことで、実際のBCPひな型を使った「自然災害時の事業継続計画（BCP）作成研修（前期/後期）」も同様に配信システムを使い配信を行った。

【東京ガス提供】 一般社団法人福祉防災コミュニティ協会

最新版！ 福祉事業者のBCP作成講座

主催：東京ガス株式会社
講師：（一社）福祉防災コミュニティ協会代表理事 鍵屋 一



福祉防災コミュニティ協会

【東京ガス提供】 一般社団法人福祉防災コミュニティ協会

本日の研修内容

（一社）福祉防災コミュニティ協会

- ①近年の大災害及び福祉施設
の状況
- ②BCPの概要と作成方法
⇒ここです。
- ③重要ポイントの解説
- ④初動対応の防災スタートBOX
紹介、レベルアップ、継続性

【東京ガス提供】 一般社団法人福祉防災コミュニティ協会

【東京ガス提供】 一般社団法人福祉防災コミュニティ協会

自然災害時の 事業継続計画(BCP)作成研修 (前期)

主催：東京ガス株式会社
講師：（一社）福祉防災コミュニティ協会代表理事 鍵屋 一



福祉防災コミュニティ協会

【東京ガス提供】 一般社団法人福祉防災コミュニティ協会

本日の研修内容

（一社）福祉防災コミュニティ協会

- ①近年の大災害及び福祉施設
の状況
- ②BCPの概要と作成方法
⇒ここです。
- ③重要ポイントの解説
- ④初動対応の防災スタートBOX
紹介、レベルアップ、継続性

【東京ガス提供】 一般社団法人福祉防災コミュニティ協会

【東京ガス提供】 一般社団法人福祉防災コミュニティ協会

自然災害時の 事業継続計画(BCP)作成研修 (後期)

主催：東京ガス株式会社
講師：（一社）福祉防災コミュニティ協会代表理事 鍵屋 一



福祉防災コミュニティ協会

【東京ガス提供】 一般社団法人福祉防災コミュニティ協会

本日の研修内容

（一社）福祉防災コミュニティ協会

- ①近年の大災害及び福祉施設
の状況
- ②BCPの概要と作成方法
⇒ここです。
- ③重要ポイントの解説
- ④初動対応の防災スタートBOX
紹介、レベルアップ、継続性

【東京ガス提供】 一般社団法人福祉防災コミュニティ協会

(4) 広島県BCP研修

広島県社会福祉協議会からの委託で、広島県内の介護老人福祉施設の役職員を対象として、「福祉施設のBCP作成を通じた防災リーダー養成研修」を実施した。

本研修のねらいは、以下の通りである。

- 福祉施設の事業継続計画（BCP）の具体的な策定方法を学ぶ。
- 発災時の初動対応及び要介護者等への介護体制の構築を学ぶ。
- 自地域・施設の状況に応じた実効性の高い事業継続計画（BCP）を作成する。

研修内容	日時	場所	人数	講師
前期研修	2021/1/5（水） 13:30-17:00	オンライン オンラインサポート：上園	103 (67施設)	鍵屋上級コーチ 中井認定コーチ
後期研修	2021/2/22（火） 13:30-16:30	オンライン オンラインサポート：上園	92 (59施設)	鍵屋上級コーチ 中井認定コーチ
合計			195	



（４）秋田県男鹿市福祉避難所研修

秋田県男鹿市からの委託で、国土地図株式会社から男鹿市への企業版ふるさと納税に係る寄付を活用して、福祉避難所開設・運営訓練等を実施した。

参加者が福祉避難所マニュアルひな型に合わせ福祉避難所開設を体験することで、自施設でも同様の訓練を企画・実施できるようにすることを目標とした。

参加者は施設から13人、男鹿市職員7人（防災、福祉、広報）、福祉防災コミュニティ協会8人、給電機・ラップポイントイレ関係者5人、合計33人であった。



本研修の実施までには、新型コロナウイルス感染症の流行による開催延期や開催会場の変更等があり、また開催直前の3月16日に発生した福島県沖地震により東北新幹線の脱線等の被害が発生し、現地への移動手段の振替等が発生したが、2021年3月25日（金）に男鹿市保健センター内の旧中央デイサービスセンターを会場として研修を完了することができた。

全体の実施内容は、以下の通りである。

- 福祉避難所開設・運営訓練支援
- 福祉避難所運営マニュアル等の改善提案
- 災害時支援

このうち災害時支援については、契約期間内においては災害による被災により福祉避難所を開設する必要はなかったため、支援は行っていない。

研修内容	日時	場所	人数	講師
福祉避難所運営マニュアル点検	2021/12/25（土） ～2022/3/31（木）	—	—	高橋上級コーチ 鍵屋上級コーチ 上園上級コーチ
福祉避難所訓練計画およびレイアウト作成	2021/12/25（土） ～2022/3/31（木）	—	—	鍵屋上級コーチ 高橋上級コーチ 上園上級コーチ
福祉避難所訓練	2021/3/25（金） 13:30-16:00	男鹿市保健センター 内 旧中央デイサービスセンター 〒010-0511 男鹿市船川港船川 片田74	20	鍵屋上級コーチ 高橋上級コーチ 横内上級コーチ 湯井上級コーチ 上園上級コーチ 前川認定コーチ 松原認定コーチ 木村認定コーチ
合計			20	

① 福祉避難所運営マニュアル点検

男鹿市から提供された男鹿市福祉避難所マニュアル（31年3月作成）について点検を行い、文言の修正・追記・削除などを行うとともに、改善に向けた提案を行った。

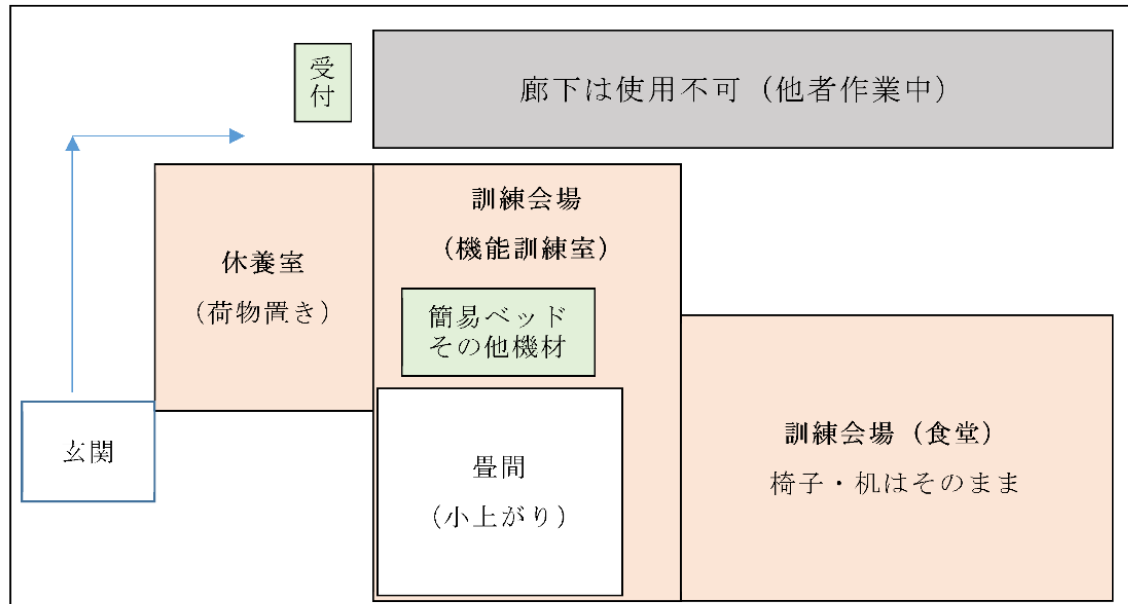
マニュアル全体に対する提案については、以下の通りである。

- 災害時の効果的な開設・運営を考えると、現行の福祉避難所マニュアルは理念、目的、大枠等を示す「福祉避難所ガイドライン」として位置づけていただくと、男鹿市の福祉避難所の位置づけや運営理念が、一層あきらかになると考えます。
- 協定先の施設において災害時の具体的な福祉避難所立ち上げや運営に資するものとして、当会のマニュアルをぜひ「男鹿市福祉避難所開設・運営マニュアル（実践編）」としてご利用いただければと考えます。

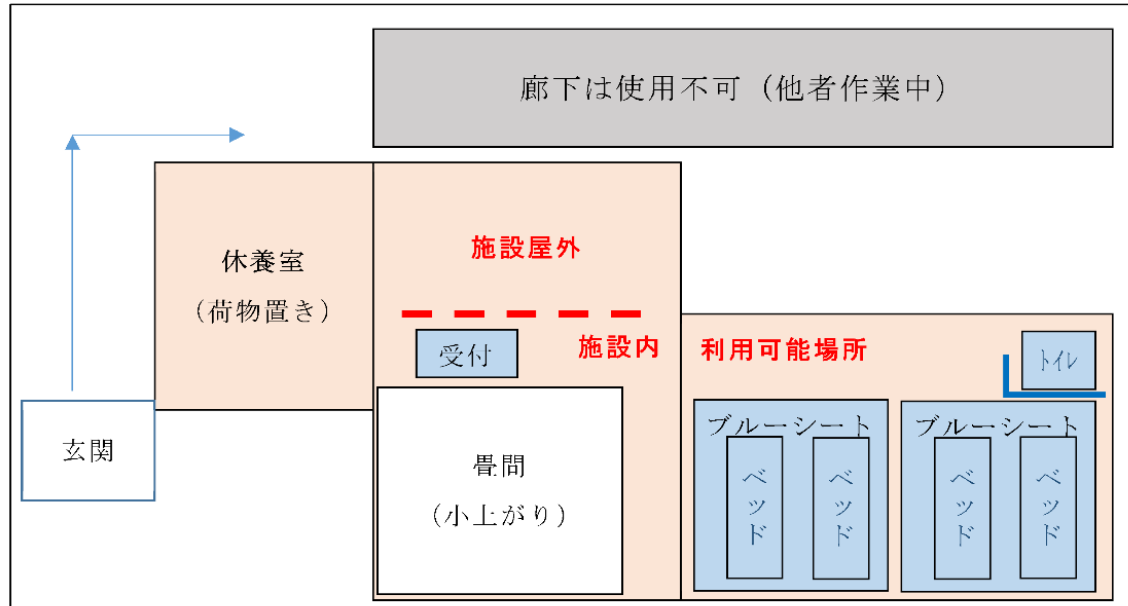
② 福祉避難所訓練計画およびレイアウト図作成

事前打合せ内容を踏まえ、訓練計画書および会場レイアウト図等を作成した。

3.2 場内レイアウト（事前）



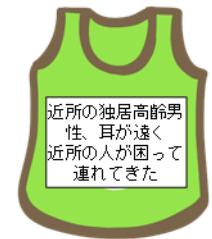
3.3 場内レイアウト（訓練中の案）



③ 福祉避難所訓練

事前打合せ内容を踏まえ作成した実施概要は、以下の通りである。

- 男鹿市は、民間の福祉施設と「災害時における福祉避難所の開設等に関する協定書」を締結しており、指定避難所での生活が困難な介護を必要とする方の二次避難所として、当該施設に福祉避難所の開設を要請することができる。
- 福祉避難所を開設する必要がある大規模地震が発生。男鹿市内は震度7、ライフラインは全てダウン（電気、ガス、水道、電話、インターネット）。
- 「近所のお年寄りが避難して来てしまった。市からの福祉避難所開設要請が十分あり得る」という状況。その後、市から福祉避難所の開設要請がある。
- 訓練参加者を2班に分け、施設運営者役・避難者役とする。1時間程度、訓練を実施したら、役を入れ替えて同様な訓練を行う。
- 施設運営者役は「ある福祉施設の運営メンバー」となり、福祉避難所開設ボックス（福防協が1セット準備）等を使いながら、マニュアルひな型に沿って「3. 福祉避難所の開設」を訓練する。1回目の避難所指揮は、地域密着型生活介護 わだつみ様（男鹿市から推薦）にお願いする。
- 避難者役は避難者状況が書かれたビブス（例：右図）を着用し、そこに書いてある避難者役を演じる。
- また避難者役として訓練に参加しつつ、訓練者等を観察して改善点・感想、各施設のマニュアルの修正点等をメモしておく。
- 講師は訓練の進め方の説明を行い、解説・質疑応答により参加者の疑問等に答える。訓練の主体は参加者自身であり、訓練中は基本的に見守り（動きが止まっている場合はフォロー程度）とする。
- 男鹿市職員（1～2名）に、男鹿市災害対策本部から派遣された連絡員役として参加いただく。役割は、福祉避難所の開設要請・支援品の持ち込み・福祉避難所から市への報告を受ける等（詳細はスケジュールに明記）。
- その他、男鹿市（防災部門、福祉部門の所管課担当）職員は、訓練参加者として班に割り振り参加。
- 福防協関係者は、避難所でキーになる避難者（最初に来る近所のお年寄り役等）として参加。
- 訓練の機材として調達した福祉避難所開設BOX、職員用トイレ、外部給電器及び蓄電器及びラップポイントイレの操作訓練を行う。



時 間	タイトル	内 容
13:00～13:30	受付	受付
13:30～13:35	開会	開会あいさつ
13:35～14:25	マニュアル説明他	福祉避難所開設・運営マニュアル説明、機材の操作訓練
14:25～14:30	訓練の流れ説明	A 班→ B 班の順で施設運営者として避難所運営を行い、B 班→ A 班の順に避難者として訓練を観察する。
14:30～14:35	訓練 1 回目準備	
14:35～15:15	訓練 1 回目	A 班：施設運営者、B 班：避難者
15:15～15:30	解説・質疑応答・ふりかえり	ポイントとなる部分について解説する。
15:30～15:40	休憩	手指消毒、必要に応じて器材も消毒。
15:40～15:45	訓練 2 回目準備	A 班：避難者、B 班：施設運営者
15:45～16:25	訓練 2 回目	A 班：避難者、B 班：施設運営者
16:25～16:40	解説・質疑応答・ふりかえり	1 回目同様に行う。
16:40～16:55	まとめ	AAR、訓練全体に対する講評、各施設で行う場合のアドバイスなどを行う。
16:55～17:00	閉会	閉会あいさつ

会場準備、準備資器材等



開会



福祉避難所開設・運営マニュアル説明、機材の操作訓練



訓練





振り返り



閉会



【参加者のコメント：運営リーダー役のメンバー】

- ・ 開設体制の確認の経験ができた。誰に何を伝えればいいのかは、不安になった。外部との連絡については、「確認の上、伝える」ということができなかったのが残念であった。
- ・ 福祉避難所を開設するための準備と受け入れだったが、開設するための物の準備に時間がかかる。準備と受け入れの2パターンに分けて訓練をしたいと感じた。各施設、状況が違うので確認が必要である。
- ・ 市内に福祉避難所がたくさんあるので、通し番号で言った方がいいのではないかな。
- ・ 外から来た人は、ボランティアとして考えてもらった方がもっと違う意味で良い訓練になったのではないかな。
- ・ 最初に説明があったが、開設にあたっての事前準備ができていなかったもので、事前準備をある程度しておかないと、実際に役割を分担するにしても指示が出せない。
- ・ 備品内容の把握、リストアップをした上で、指示役を決めて対応することが一番大切だと感じた。

【講師のコメント：訓練1回目】

- ・ リーダーは大変いいポジション取りをして、指示を出していただいた。訓練では、1か所に集まって「目」が集まってしまうことがあるが、今回よく差配していただいた。
- ・ これから何が起きるかわからない中、最初に来たおじいさん1人に対して、最大で3人が対応していた。1人で対応して落ち着かせないと、その後に騒ぐ人が来ると大変になるので、よく考えていただきたい。
- ・ 受付の体制が甘かった。避難所内をマスコミがウロウロしたり、受付を通らずに誰だかわからない人が入ってしまった、ということも起きていた。実際の被災地でも、こういうことが起きてしまう。表玄関辺りで入口チェックをして、避難所に入る人をきちんと確認する人を作ることが大事。
- ・ 菓を飲みたい人やラーメンを食べたい人に対して、臨機応変に水や飴をずっと渡したのはとても良かった。
- ・ 地震の場合は、余震があることを考えておく必要がある。頭を保護するために、ヘルメットの準備をしておくことも必要。
- ・ 車椅子の手配がすぐにできたのは、よかった。福祉施設や役所の入口には車いすがあるので、そこにあるものはなんでも上手に使えるようにしていただくとよい。
- ・ 避難所に入っている人たちの感染症対策（検温や消毒など）をやられたのはよかったが、訓練中に自分達の手指消毒は出来ていたか。こういうことも訓練の中でやっていただくことが大事である。
- ・ 今回のリーダーは訓練もされているので、大変落ち着いておられて上手すぎた。こういう人はなかなかいない。通常だと、リーダーはサブリーダーを指名して、相談したり、情報を伝えて貰ったりする。
- ・ リーダーからトイレの設置指示があり、15分でサッと組み立てられたのは素晴らしいかった。

（避難者役から「トイレに行きたい」との要望もあった）

- 名簿でアセスメントができたのも、よかった。
- 男鹿市職員が来たときに連絡先の電話番号を聞いたこと、薬を飲むためのコップがないときに「あるものでなんとかするように」と指示されたことは、とてもよかった。

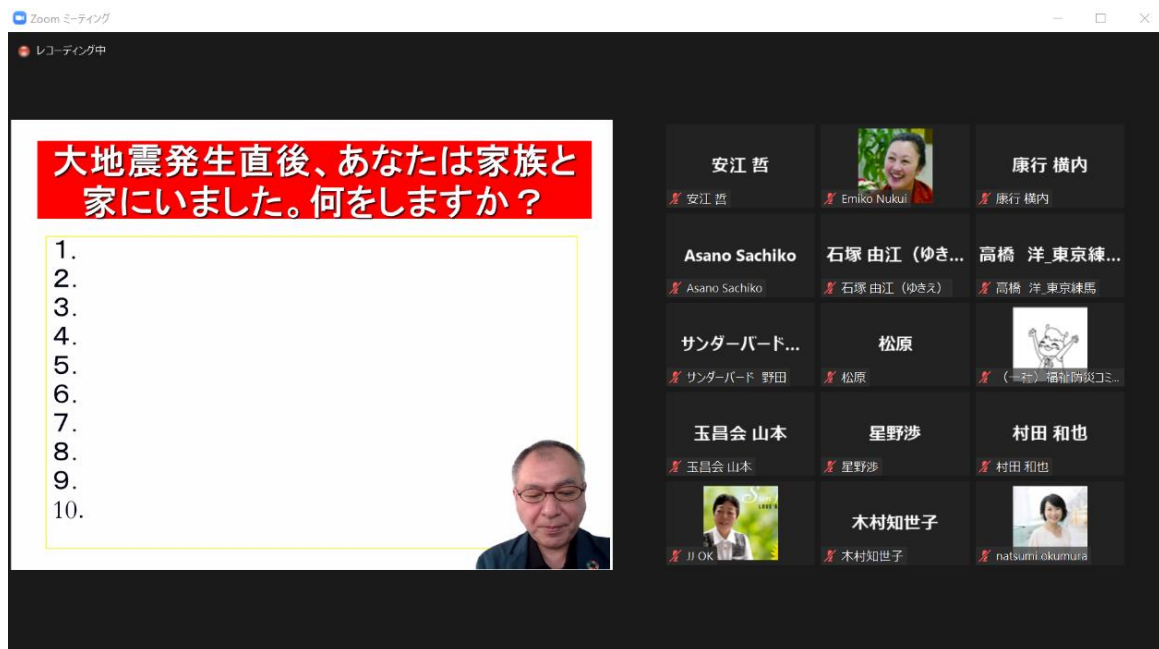
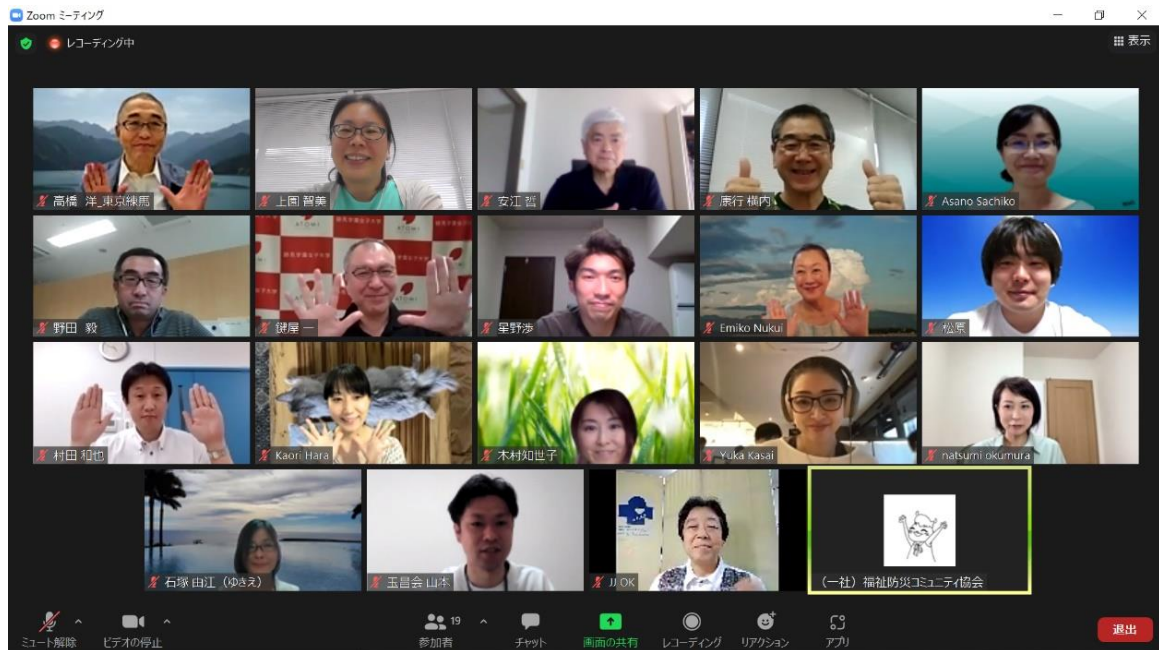
【講師のコメント：訓練 2 回目】

- 訓練の目的がはっきりしていれば、やりやすい。目的を決めて訓練をやることが大事である。半日の訓練は難しいと思うが、15分の訓練は目的を決めてやれば改善がしやすい。
- 2 回目の訓練ではイメージが出来ていたので、対応する人も受付も混乱がなく、消毒も上手くできた。トイレのパーテーションもちゃんとできていた。（避難者役から「トイレが丸見え」という指摘があった）
- 手がかかる人が避難して来たときに、どうするか。家族と一緒に来てくれたら、手放さずなしろ居てもらい、家族で面倒を見て貰う。また、オーバーベッドで対応することも必要。
- 犬を連れた避難者に対しては、ケージもなく一緒にベッドにいる状況になっていた。備えとして、2 ～ 3 個ケージがあるといい。
- 赤ちゃんが一緒だった避難者がいたが、授乳スペースは設置されなかった。
- 建物の安全確認で、少しガラスが割れていても避難者を受け入れる判断をしたのは素晴らしいかった。
- 2 回目の訓練では、福祉避難所スタートボックスを使ってもらうようにお願いした。施設長が必ずいるとは限らないので、来た人がまず箱を開けるとやるべきことが書いてあり、対応を進めることができる。これを使って普段から福祉避難所訓練をやって貰えば、カンがつかめる。指示書を読むだけでも図上訓練になる。
- 初動対応が上手いけば、次は市役所と連携して、また自治会にも支援してもらって災害対応をやっていただきたい。ぜひ、地域とも行政とも仲良くしてもらえるといい。
- この福祉避難所のルールを受付の最初で説明する、福祉避難所内のレイアウトを表示する、福祉避難所の旗を立ててアピールする、ということも実施していただきたい。
- 総理は今回のようにすぐには来ないと思うが、マスコミやよくわからないボランティアはたくさん来るので、想定しておくことが必要。
- 市役所が応援物資を持って来て、置いてすぐに帰って行ったが、単純に返していいか。
- 避難者を移送してきた人も、ずっと帰ってしまった。運ぶことが仕事なので仕方がないが、引き継ぐことなどはないか。
- 建物の調査は、出来ていなかった。（1 回目は、調査結果を報告していた）

今回も、訓練終了後にAAR（After Action Review）を使い振り返りを行った。

(5) 福祉防災認定コーチ資格研修

2021年度の認定コーチ研修を、2021年8月7日（土）に実施し、認定コーチ資格にチャレンジするメンバー・認定コーチの復習希望者など、13名が参加した。



被災地への支援

（１）熱海市伊豆山地区土砂災害

2021年7月3日午前中、静岡県熱海市伊豆山地区の逢初川で大規模な土砂災害が発生した。被災により周辺地域は断水が発生し、7月4日、社会福祉法人湖成会から「複合型介護福祉施設 熱海伊豆海の郷」への支援が要請された。このため、7月5日に鍵屋代表理事から当会事務局である日本ミクニヤ株式会社へ依頼し、事務局上園ほか1名が飲料水やトイレトペーパー等の物資支援を行った。



コミュニティ協会御中
上園 様

拝啓 猛暑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたびの熱海市伊豆山の土石流に伴う被害に際しまして、多大なるご支援やご厚情あふれる励ましのお言葉を賜り、厚く御礼申し上げます。

熱海伊豆海の郷では幸いにもお客様・職員は無事であり、建物への被害もありませんでしたが、断水や主要道路の封鎖などが発生し、通常の運営ができなくなりました。

現在では水や道路の通行の問題についてはひとまず解消され、特別養護老人ホーム・ケアハウス・養護老人ホームについては、節水に努めながらほぼ通常の運営ができるようになりました。デイサービスについては、7月19日より短時間での営業を再開しております。

今回の災害において、皆様から頂戴しました心温まるお言葉や支援を糧に、職員一同 力を合わせて、これまで以上に良いサービスを提供できるよう努力して参ります。併せて、地域住民の皆様が少しでも安心して生活ができるよう、伊豆山地域全体の生活再建のお手伝いをしていく所存でございます。しばらくは、様々な場面でご迷惑をお掛けすることもあるかと存じますが、今後とも引き続きお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

取り急ぎ、まずはご報告かたがた御礼を申し上げます。

敬具

令和3年8月3日

社会福祉法人 湖 成 会

複合型介護施設熱海伊豆海の郷

理事長 湖 山 泰 成

熱海伊豆海の郷からのお礼状（2021年8月4日着）

また7月11日には鍵屋代表理事と事務局上園が、6月26日に開催した第4回シンポジウムに登壇いただいた社会福祉法人海光会 理事長兼施設長の長谷川みほ様を訪問し、発災前の大雨の様子や対応の状況等についてヒアリングをさせていただきました。



海光園でのヒアリング



熱海市物資拠点でのヒアリング

福祉防災認定コーチ、上級コーチ認定者

「福祉防災認定コーチ」資格研修を受講した5名が研修終了後のレポートを提出し、審査により認定コーチとして認定した。

	福祉防災認定コーチ		福祉防災上級コーチ	
	認定番号	氏名	認定番号	氏名
2021 年度	認定コーチ210031	浅野 幸子		
	認定コーチ210032	原 香織		
	認定コーチ210033	山本 陽生		
	認定コーチ210034	村田 和也		
	認定コーチ210035	野田 毅		

展示会等への出展やマスコミ等による紹介

(1) ぼうさいこくたい2021への出展

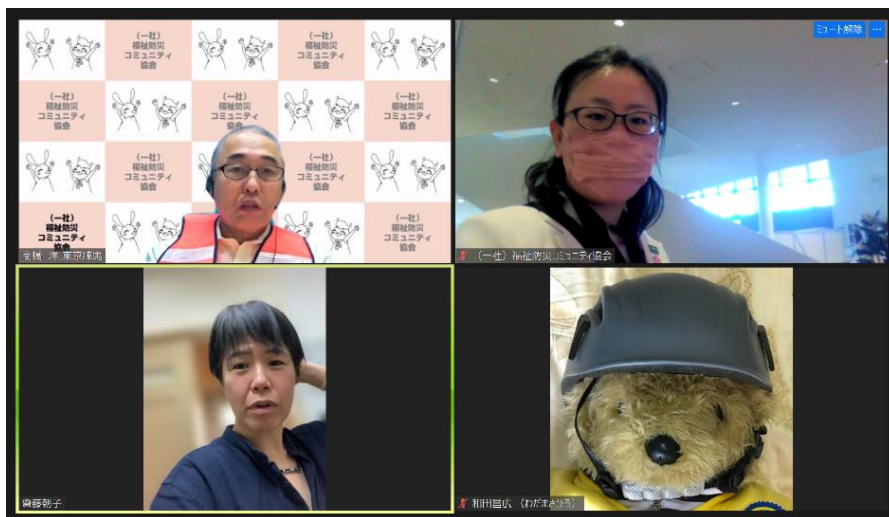
2021年11月6日～7日、岩手県釜石市にて行われた「ぼうさいこくたい2021」に『福祉BCPと福祉避難所』を出展した。

釜石市民ホールTETTOのブースには、「福祉避難所スタートボックス」の展示や、みんなげんきになる福祉避難所等のチラシ・埼玉福祉会の福祉防災カタログなどの配布を実施した。

会場を訪れた二之湯智内閣府特命担当大臣（防災）にも、鍵屋代表理事から当会が実施する「みんなげんきになる福祉避難所」の意義について説明を行った。その他多くの防災関係者・地域の家族連れの見学があった。



新しい取り組みとして、オンラインで展示の配信や高橋副理事長によるご相談会を実施した。
wifiの不調等の不具合もあったが、会場へ来られなかった方にも展示等の様子をご覧いただくことができた。



(2) マスコミからの取材

各地で行った訓練について、マスコミによる取材を受けた。特にリスク対策.comは、「防災・危機管理ニュース：市原市、「福祉避難所」開設訓練を実施 訓練体験で手応え」というタイトルで、訓練を行うに至った経緯から訓練内容まで丁寧にまとめられている。



リスク対策.com（2021年6月3日）による市原市訓練の報道



毎日新聞（2021年6月6日）による市原市訓練の報道

福祉避難所 開設・運営

市原市、初の訓練

大規模災害時、障害者や高齢者などの要支援者が二次的に避難する福祉避難所の開設・運営で、市原市は県立市原特別支援学校で初めて訓練を行った。高齢者や障害者施設などの関係者ら約50人が参加し、手順を確認した。

市危機管理課によると、市内でも甚大な被害が出た



市原市で福祉避難所の開設・運営訓練が初めて行われた＝県立市原特別支援学校

シヨンの設置も行った。同課は「開設のイメージづくりが大切。訓練を一步として市の福祉部門や施設と連携して、要支援者の避難の態勢づくりに取り組むたい」とした。

福祉避難所は災害時、市

の指定避難所に避難した要支援者が、そこでの生活が困難な場合、必要に応じて福祉施設などに開設を要請し市が設置する。同市の福祉避難所は30カ所で、そのうち22カ所は市と協定を結んだ民間など。これまでに福祉避難所の設置はなく、設置・運営に関するマニュアル策定にも取り組む。

一方、19年9月の房総半島台風(15号)では指定避難所11カ所に最大計268人が避難。10月の東日本台風(19号)は26カ所で2776人、その後の大雨では29カ所に955人が避難した。

千葉日報（2021年6月18日）による市原市訓練の報道

「福祉避難所」対応を確認

男鹿 市職員らが開設訓練

災害時に支援が必要な高齢者や障害者らを受け入れる「福祉避難所」の開設訓練が25日、男鹿市保健センターで行われた。市の福祉避難所に指定されている社会福祉施設の職員と、防災・福祉担当の市職員らが参加。避難所開設の流れや避難者への対応を確認した。

災害時の迅速な福祉避難所開設と、スムーズな運営を目指すことが主眼だった。福祉施設の災害対応力の向上などを支援する「福祉防災コミュニケーション協会」（東京）が協力した。

訓練は、大規模地震が発生し、電気や水道などのライフラインが停止した状況を想定。視覚障害者や足の不自由な人、けがをしていて支援が必要な高齢者らが、次々と施設に避難した。職員らは感染

症対策のために検温や消毒をしながら、避難者の氏名や住所を聞き取って受け入れた。市から支援物資として届けられた毛布や簡易ベッドを準備し、災害用簡易トイレも手早く組み立てた。不安で動揺している避難者には現在の状況を丁寧に伝えるなど、適切な対応方法を確認した。

同協会の鍵屋「代表理事（男鹿市出身）は「機転の利いた対応が見られてよかった。各施設で短時間でも目的を持って訓練に取り組み、課題を洗い出してほしい」とア



避難者への対応などを確認した訓練

参加した社会福祉法人男鹿福祉会の佐藤哲彦理事長は「本格的な訓練でためになった。教訓を持ち帰り、施設で



届けられた毛布を並べる施設運営者役の参加者

継続的に訓練して方が一に備えたい」と話した。

（藤原 創）

©秋田魁新報社

秋田魁新報（2022年3月28日）

その他、当会関係者が関わったテレビ・ラジオ番組、新聞やネット記事などは多数あるが、都合上、当会の所属が出ていないものもあることから、ここでは割愛する。

フェイスブックによる情報発信（災害関係のみ）

大災害が想定される際や発生した際に、フェイスブックを活用し情報発信を実施している。2021年度は以下1件の発信を実施した。

（1）2021年7月3日（熱海市での災害発生後）

東海、関東の豪雨災害

「高齢者・障がい者等の被災者支援」（2021.7.3.18:30）

跡見学園女子大学教授

（一社）福祉防災コミュニティ協会代表理事

鍵屋 一

このたびの東海地方、関東地方の豪雨災害で被災された皆様に、心からのお見舞いを申し上げます。

特に熱海市では土石流災害が発生し、多くの被害が出てしまいました。土中に雨の量が多い時に強い雨が降ったり、その雨が収まった後でも土砂災害が発生する可能性があります。まだ、この梅雨前線が停滞し雨が続きそうなので、救助活動をされている方々におかれましても、引き続き嚴重にご注意くださいますようお願いいたします。

メディアの方々には被災者、被災自治体支援の観点からの報道をお願いいたします。

災害が発生してしまえば、事前の対策がどうだったかなど検証している場合ではありません。被災者はもとより自治体、防災関係団体は、次の被害を最小限度にとどめるため、全力を尽くさなければならぬからです。

また、高齢者・障がい者等の支援のため、自治体、関係団体の方には、従来の対策とともに以下のことにも取り組んでいただけますよう切にお願いいたします。

（1）コロナ禍での避難生活（公衆衛生の悪化の防止）

・土砂災害警戒区域、特に特別警戒区域の方へは、できるだけ安全な避難場所・避難所、親族・知人、ホテル・旅館などへの避難をお勧めください。やむなく自宅に留まる場合でも、少なくとも斜面の反対側で過ごすようにしてください。

・避難所については、体育館で雑魚寝から始まる避難生活を避けなければなりません。学校ではできるだけ教室を使わせていただき、少人数・個別空間での避難生活を目指しましょう。ホテル、旅館も活用しましょう。

・車中泊を含む在宅避難者の安否確認、ケアを早めをお願いします。1階が浸水して、2階で生活している被災者がとても心配です。避難所は地域全体の避難生活を支える拠点であり、在宅の避難者でも支援物資を受け取れます。このことを、住民のみなさんにお伝えください。

（2）福祉避難所の開設

・福祉施設も大変な中ではありますが、余力のある施設は事前指定の有無にかかわらず、また自治体からの要請を待たずに、福祉避難所として高齢者・障がい者等を受け入れていただきたい

と思います。

・福祉避難所では、人と物資が不足するので、早い段階で仲間の法人、会社、自治体に応援要請をすることが大切です。長期戦になりますので、職員が疲れ切ってからではなく、早めに交代要員を確保してください。

（３）「地域支え合いセンター」の早期設置

・災害後には、生活支援や再建に関する重要情報を在宅避難者らに伝え、見守り支援により災害関連死を防止する拠点が必要です。そこで、社会福祉協議会には福祉関係者を中心に在宅支援を行う「地域支えあいセンター」を、早期に設置することをお願いします。

・これまでの災害で「地域支え合いセンター」業務を担われた方は、リモート、または現地でその経験をお伝えください。

【参考】わかりやすいお役立ち資料

・『新型コロナウイルス 避難生活お役立ちサポートブック』

健康チェックリストや感染者、濃厚接触者、要介護者、妊産婦・乳幼児など被災者の状況に応じて、学校の教室を活用したゾーニングレイアウト案を参考にしてください。

（「全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）」の専門委員会「避難生活改善に関する専門委員会」作成）

１）新型コロナウイルス感染症避難生活お役立ちサポートブック（第3版）

<http://jvoad.jp/.../02/db1b9a713e3816a3037c96d4d1539390.pdf>

２）資料集

<http://jvoad.jp/.../02/d75250c37ab446fe3b26c1ecb0e35aca.pdf>

※上記2冊は、対になっているのでセットでご覧ください。

・『水害にあったときに～浸水被害からの生活再建の手引き～』

日常生活を取り戻そうと考え始めたときに有効です。イラストが多く、保険の請求、浸水した家屋の泥出し・乾燥などのポイントがとても分かりやすいです。（「震災がつなぐ全国ネットワーク」作成）

・チラシ版(A4版4頁)

水害被害にあった際の必要最低限の情報を掲載しています。

・冊子版(A5版32頁)

冊子版では、写真やイラストを用いて、

- １．まずは落ち着いて（ある程度の期間がかかるので慌てずに）
- ２．必要な手続き（役所や保険会社、税務署など手続きもいろいろ）
- ３．家屋のかたづけと掃除（何をどうすればいいのが写真とイラストで解説）
- ４．水害からの生活再建「私の場合」（被災者の生の声を掲載）

という構成で、水害にあった際の対応について情報を掲載しています。

・冊子・チラシを補完する「水害後の家屋への適切な対応」(A4版4頁)

これまでの冊子・チラシを補完するため、より具体的な水害後の家屋への適切な対応が書かれ

ています。直後の応急対応にはとても役立つものです。

上記、すべては以下のblogからダウンロードできます。

<https://blog.canpan.info/shintsuna/archive/1420>

リーチした人数 (コンテンツを見てくれた人数)	374	エンゲージメント数 (ユーザーが行ったプラスのリアクション)	91
----------------------------	-----	-----------------------------------	----

その他の活動

(1) 福祉避難所のぼり作成

被災地支援や研修、出展時などに活用するため、福祉避難所ののぼりを作成した。

ぼうさいこくたいでの出展ブースに掲示することで、視覚的に福祉避難所をアピールすることができた。

また訓練会場で事前に掲示しておいたり、参加者に掲示してもらったりすることで、このようなアイコンが必要であることを体感してもらうこともできた。



(2) 埼玉福祉会との「防災スタートBOX」「福祉BCPひながたセット」販売に向けた契約

社会福祉法人埼玉福祉会と防災スタートBOXに関する販売実施に向けた契約を継続するとともに、福祉BCPひながたセットの販売についても契約を結んだ。防災スタートボックスは1件、福祉BCPひながたセットは20件販売され、販売個数に応じた実施料が支払われた。

**防災意識を高め福祉防災計画を遂行
さまざまな物資の準備をしていく**

福祉防災計画を整えたいが…
●何をしたいかわからない!
●どこから手をつけていいかわからない!

防災用品、経費だけ準備しても不十分です。
利用者と職員、命と財産を守るはばかりが大切です。

1 防災スタートBOX実践指導書 (各冊200円)

災害発生後、すぐに初動対応の指示が出せる指示書です。

2 事業継続計画(BCP)兼 避難確保計画 (各冊200円)

福祉事業用にはない状況においても
小規模で済ませることが出来ます。
また、災害と日常の両方を同時に準備することが出来ます。
災害と日常の両方を同時に準備することが出来ます。
災害と日常の両方を同時に準備することが出来ます。

**するには
が大切です**

同じ「防災スタートBOX」は、
よく考えられた防災計画を
作成することが大切です。
同じ「防災スタートBOX」は、
よく考えられた防災計画を
作成することが大切です。

(一般社団法人) 福祉防災コミュニティ協会 監修

200-30 防災スタートBOX (200-30)

1 防災スタートBOX実践指導書 (各冊200円)
2 事業継続計画(BCP)兼 避難確保計画 (各冊200円)
3 防災情報機器8点セット (200-30)
4 防災文具12点セット (200-30)

緊急時の必需品セットです

200-30 防災衛生5点セット (200-30)

ご注文はライフザックカタログ裏面の注文用紙をご使用ください。

(3) ワークスモバイルジャパン株式会社との協定に向けた調整

ワークスモバイルジャパン株式会社が提供する企業向けのクラウド型ビジネスチャットツール「LINE WORKS」が、災害時の福祉施設等において重要なコミュニケーションツールになる。このため、埼玉福祉会の福祉防災カタログ内での広報を行うとともに、今後の展開に向け協定を結ぶため調整を進めた。



こちらもおすすめ！
あのコミュニケーションツールは
BCPの実践でも大活躍！

LINE WORKSのご紹介

LINE WORKSとは

LINEと同じような使いやすさで、業務連絡に役立つ機能が揃った、ビジネス用のコミュニケーションツールです。LINEおなじみのチャットやスタンプだけでなく、グループで共有できるノートやカレンダー、フォルダを活用することで、無駄なくスムーズなコミュニケーションが可能。福祉防災コミュニティ協会もおすすめしている、便利なサービスです。

日々の仕事で
便利な機能が
たくさん！

			
チャット	ビデオ通話	掲示板	カレンダー
			
アンケート	タスク	メール	ファイル共有

使い慣れたツールは災害時でも活躍！



安否確認
アンケートを
すばやく
作成



被害状況を
写真つき
チャットで
やり取り

- LINE WORKSを無料で始めたい方はこちら
<http://works.do/xihrvf>
- LINE WORKS体験セミナーへのお申込みはこちら
https://pages.worksmobile.com/2021_kaigo_start_webinar.html



重要な「職員の安否確認」ですが、災害時には電話もメールもつながりません。一方、過去の災害ではLINEがつながり、大活躍しています。既読がつき、写真が送れ、記録も残るので引継ぎもスムーズです。でも、個人のLINEアカウントを業務で使うのはプライバシー上、問題です。そこで、「LINE WORKS」！

- ・個人のLINEアカウントを使わず、ビジネス用のアカウントを使うことでプライバシーに配慮できます。
- ・多くの人が使い慣れたLINEと同様な使い方なので、すぐに利用できます。
- ・100名までは無料です。

私たちも使っています。カンタンに導入できますので、安否確認用に始めてみてはどうでしょうか。

(一社) 福祉防災コミュニティ協会代表理事 鍵屋 ー

2021年度の成果（実績）とインパクト

2021年度に実施した研修は、以下の通り。

【協会主催のもの】

開催日	活動タイトル 等	数	会場	講師など
2021/8/7	認定コーチ資格研修	13	ちよだプラットフォーム +Zoom	鍵屋上級コーチ 高橋上級コーチ 横内上級コーチ 湯井上級コーチ 上園上級コーチ
参加者数合計		13	(参考) 2020年度：22	

【自治体等からの研修】

OJTメンバー

開催日	内容/場所/回数	数	会場	講師
2021/5/19	千葉県市原市福祉避難 所開設・運営マニュアル作 成研修後期	29	市原市役所第 1庁舎4階	鍵屋上級コーチ 横内上級コーチ 岡野谷認定コーチ
2021/6/2	千葉県市原市福祉避難 所開設・運営訓練	31	市原特別支援 学校体育館	鍵屋上級コーチ 高橋上級コーチ 横内上級コーチ 上園上級コーチ 石塚認定コーチ 松原認定コーチ
2022/1/5	広島県BCP研修前期	103	オンライン サポート：上園	鍵屋上級コーチ 中井認定コーチ
2022/2/22	広島県BCP研修後期	92	オンライン サポート：上園	鍵屋上級コーチ 中井認定コーチ
2022/3/25	秋田県男鹿市福祉避難 所研修	20	男鹿市保健セン ター内旧中央デ イサービスセンター	鍵屋上級コーチ 高橋上級コーチ 横内上級コーチ 湯井上級コーチ 上園上級コーチ 前川認定コーチ 松原認定コーチ 木村認定コーチ
参加者数合計		275	(参考) 2020年度：207	

【消防防災科学センター受託】

OJTメンバー

開催日	活動タイトル 等	参加者数	会場	講師など
2021/9/14	三重県前期	22	オンライン開催 サポート：岡野谷	鍵屋上級コーチ 高橋上級コーチ
2021/9/15	長崎県前期	69	オンライン開催 サポート：上園	横内上級コーチ 石塚認定コーチ
2021/10/18	奈良県前期	29	オンライン開催 サポート：上園	湯井上級コーチ 前川認定コーチ
2021/10/20	岡山県前期	38	きらめきプラザ401会議室	高橋上級コーチ 上園上級コーチ
2021/10/26	三重県後期	19	三重県社会福祉会館大会 議室	湯井上級コーチ 前川認定コーチ
2021/11/19	鳥取県前期	34	倉吉体育文化会館	高橋上級コーチ 中井認定コーチ
2021/11/25	奈良県後期	24	オンライン開催 サポート：上園	湯井上級コーチ 前川認定コーチ
2021/11/26	岡山県後期	35	きらめきプラザ401会議室	鍵屋上級コーチ 中井認定コーチ 前川認定コーチ
2021/11/29	愛媛県前期	32	県庁第一別館3階 第3・第5会議室	高橋上級コーチ 湯井上級コーチ
2021/12/7	熊本県前期	42	県庁行政棟本館地下大会 議室	湯井上級コーチ 上園上級コーチ
2022/1/11	長崎県後期	46	長崎県庁大会議室	横内上級コーチ 上園上級コーチ
2022/1/14	鳥取県後期	19	オンライン開催 サポート：上園	高橋上級コーチ 中井認定コーチ
2022/1/19	熊本県後期	21	オンライン開催 サポート：上園	鍵屋上級コーチ 湯井上級コーチ
2022/2/4	愛媛県後期	23	島根県県民会館 第1、第2多目的ホール	高橋上級コーチ 湯井上級コーチ
参加者数合計		453	(参考) 2020年度：180 (5県・終日)	

【その他組織が主催で講師が個別で実施したもの】

開催日	活動タイトル 等	参加数	会場	講師など
2021/5/1	てとところ ちよい防災 特別支援 学校BCPと地域連携	20	オンライン	湯井上級コーチ
2021/5/7	愛知県社協地域社会福祉委員会 研修会	57	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/5/16	(社) パステルBCP研修	40	栃木県小山市 CSW 乙女	鍵屋上級コーチ
2021/5/24	オンライン市役所防災対策課 福祉× 防災vol.1	100	オンライン	湯井上級コーチ
2021/6/5	武豊町防災リーダー講習会「あなたに できること みんなでできること」	30	愛知県武豊町役場	上園上級コーチ
2021/6/7	豊中市放課後等児童デイサービス事 業所 BCP前期研修	8	NPOアンジュ	湯井上級コーチ
2021/6/9	(社) パステルBCP研修	48	栃木県小山市 CSW 乙女	鍵屋上級コーチ
2021/6/13	地域安全学会「福祉と防災の最前線 -福祉施設の災害時業務継続」	150	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/6/15	寝屋川市教育委員会 各種課題別 研修防災教育 I	40	オンライン	湯井上級コーチ
2021/6/23	よんなな防災会「福祉防災元年」	120	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/6/30	三重県立特別支援学校R3年度教職 員防災研修会	1,000	オンライン	湯井上級コーチ
2021/7/2	長野県知的障がい福祉協会BCP研 修	30	オンライン	園崎認定コーチ
2021/7/10	福祉のまちづくり学会「福祉防災元年」	130	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/7/10	(社) パステルBCP防災訓練	100	栃木県小山市 ホーム 宙 (そら)	鍵屋上級コーチ
2021/7/13	福祉施設のBCP 入門編 居宅介護 支援事業者向け	50	清瀬市コミュニティプラ ザひまわり (ケアマネッ ト清瀬)	高橋上級コーチ
2021/7/13	尼崎市けま喜楽苑BCP前期研修	30	けま喜楽苑	湯井上級コーチ
2021/7/14	令和3年度城東区地域福祉支援員 連絡会 第1回	40	大阪市城東区役所	湯井上級コーチ
2021/7/16	長野県社協「災害福祉カンタンマップ」 シンポジウム	100	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/7/21	大阪府立藤井寺支援学校教職員研 修 福祉避難所シミュレーションゲーム	60	オンライン	湯井上級コーチ
2021/7/27	コロナ禍における避難所の設営につ いて	120	東京都立久我山青光 学園	石塚認定コーチ
2021/7/28	老施協東海北陸ブロック研修会	60	オンライン	鍵屋上級コーチ

開催日	活動タイトル 等	参加数	会場	講師など
2021/7/31	奈良県東和中和南和医療圏防災WEB会議	70	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/8/6	東京都認可外保育研修会	180	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/8/6	奈良県立明日香養護学校防災研修会	60	奈良県立明日香養護学校	湯井上級コーチ
2021/8/10	(社) パステル福祉避難所研修	40	栃木県小山市 CSW 乙女	鍵屋上級コーチ
2021/8/14	公明党大阪本部女性局防災BT研修会	30	大阪府ドーンセンター	湯井上級コーチ
2021/8/19	全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会研修	380	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/8/20	愛知県社協BCP研修会	30	愛知県社会福祉会館 会議室	鍵屋上級コーチ
2021/8/21	広島市早稲田学区研修会	40	広島市早稲田学区集会所	鍵屋上級コーチ
2021/8/25	管理職・防災担当研修	10	大阪府立平野支援学校	田原認定コーチ
2021/8/26	川崎市男女共同参画センターすくらむ21 2021年度女性防災リーダー養成研修	20	オンライン	上園上級コーチ
2021/8/29	茨木市防災女性リーダー講座①女性の視点・多様な視点をいかした地域防災講座	20	茨木市男女共同参画センター／オンライン	湯井上級コーチ
2021/8/31	石神井特別支援学校研修会	80	練馬区石神井特別支援学校	鍵屋上級コーチ
2021/8/31	岐阜県立恵那特別支援学校教職員研修会	60	オンライン	湯井上級コーチ
2021/9/1	東京都防災ウーマンセミナー	1,600	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/9/7	栃木県社協BCP研修	30	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/9/14	吹田市民会議 福祉避難新制度について	20	オンライン	湯井上級コーチ
2021/9/16	跡見学園女子大学防災訓練	120	跡見学園女子大学新座キャンパス	鍵屋上級コーチ
2021/9/20	長野県社協 県内社協向けBCP導入講座（録画）	-	長野県社会福祉協議会	園崎認定コーチ
2021/9/24	(社) パステル福祉避難所研修	40	栃木県小山市 CSW 乙女	鍵屋上級コーチ
2021/9/25	広島県三原市研修会	120	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/9/29	奈良市老施協 BCP前期研修	40	奈良市役所／オンライン	湯井上級コーチ

開催日	活動タイトル 等	参加数	会場	講師など
2021/10/3	茨木市防災女性リーダー講座②女性の視点・多様な視点をいかした地域防災講座	20	茨木市男女共同参画センター／オンライン	湯井上級コーチ
2021/10/4	倉敷市真備町箭田地区ヘルプカードWS①	40	倉敷市真備町箭田分館	湯井上級コーチ
2021/10/5	福島県社会福祉協議会「防災の基本と福祉防災計画（BCP）入門」	87	オンライン	高橋上級コーチ
2021/10/7	職員防災研修（支援学校防災アドバイザー）	80～100	大阪府立東淀川支援学校（zoom参加あり）	田原認定コーチ
2021/10/7	豊中市放課後等児童デイサービス事業所 BCP後期研修	8	NPOアンジュ	湯井上級コーチ
2021/10/8	兵庫県立特別支援学校PTA連合協議会研修会 P T C A 支援事業全県フォーラム	60	オンライン	湯井上級コーチ
2021/10/9	（社）パステル福祉避難所訓練	80	栃木県小山市 ホーム宙（そら）	鍵屋上級コーチ
2021/10/9	令和3 年度 熊野町防災・減災まちづくり会議 第2 回	50	熊野町役場	湯井上級コーチ
2021/10/10	京都市災害VC 令和3年度災害時要配慮者支援研修	40	京都市ひとまち交流館／オンライン	湯井上級コーチ
2021/10/13	日本防災環境講演	130	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/10/13	令和3年度城東区地域福祉支援員連絡会 第2回	40	大阪市城東区社会福祉協議会	湯井上級コーチ
2021/10/15	愛知県社協BCP研修会	30	愛知県社会福祉会館会議室	鍵屋上級コーチ
2021/10/16	亀岡市総合防災訓練	200	サンガスタジアムby KU OCERA	前川認定コーチ
2021/10/17	日本セーフティー講演	80	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/10/18	(株)土屋インクルーシブ防災研修	100	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/10/19	港区児童館BCP研修	70	麻布中高生プラザ+オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/10/20	四日市市災害VCスーパーバイザー研修（BCP）	25	四日市市社会福祉協議会	園崎認定コーチ
2021/10/21	鳥取県中部地震フォーラム（要配慮者支援分科会）	50	オンライン	湯井上級コーチ
2021/10/24	精華町11地区 マイタイムライン作成研修	50	精華町役場	前川認定コーチ
2021/10/24	豊中市NPOアンジュ防災カフェ	30	豊中市豊島北センター	湯井上級コーチ
2021/10/25	オンライン市役所防災対策課 福祉×防災vol. 2	100	オンライン	湯井上級コーチ

開催日	活動タイトル 等	参加数	会場	講師など
2021/11/1	倉敷市真備町箭田地区ヘルプカードWS②	40	倉敷市真備町箭田分館	湯井上級コーチ
2021/11/2	岡山県立特別支援学校明日にはばたく集い	80	岡山県立倉敷まきび支援学校／オンライン	湯井上級コーチ
2021/11/5	静岡県賀茂圏域BCP研修	30	静岡県下田市社会福祉協議会	園崎認定コーチ
2021/11/5	兵庫県立山崎高校 生活創造科（第2学年）地域の生活文化	60	山崎高校	湯井上級コーチ
2021/11/6	社会福祉法人日本キリスト教奉仕団BCP研修	30	オンライン	園崎認定コーチ
2021/11/7	ぼうさいこくたい2021 内閣府男女共同共同参画局主催、よんなな防災会女子部共催「集まれ！防災女性職員とその応援団」	100	オンライン	上園上級コーチ
2021/11/9	長泉町社会福祉法人連絡会会議	30	静岡県長泉町社会福祉協議会	園崎認定コーチ
2021/11/9	奈良県五条・吉野地域自立支援協議会生活支援部会	25	オンライン	湯井上級コーチ
2021/11/10	知的障害者福祉協会講演	200	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/11/10	令和3年度城東区地域福祉支援員連絡会 第3回	40	大阪市城東区社会福祉協議会	湯井上級コーチ
2021/11/11	都市防災推進セミナー	150	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/11/11	大阪府立藤井寺支援学校PTA防災研修会	20	大阪府立藤井寺支援学校	湯井上級コーチ
2021/11/12	知的障がい者福祉協会 相談支援・就業支援セミナー分科会	80	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/11/12	発達障害連盟講演	150	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/11/13	（社）パステル研修会	80	栃木県小山市 CSW 乙女	鍵屋上級コーチ
2021/11/13	滋賀県永源寺地区防災研修会	40	永源寺コミセンもみじホール	湯井上級コーチ
2021/11/14	奈良市顔の見える多職種連携会西ブロック研修会	70	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/11/14	奈良市社会福祉協議会 福祉避難所開設に向けた研修会	70	奈良市総合福祉センター	湯井上級コーチ
2021/11/15	愛知県社協ヘルパー研修	100	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/11/16	日本防災環境講演	150	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/11/18	特別区職員研修	60	特別区職員研修所	鍵屋上級コーチ
2021/11/19	共生サミットin鎌倉 第3分科会	400	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/11/20	立川防災ボランティア研修	80	オンライン	鍵屋上級コーチ

開催日	活動タイトル 等	参加数	会場	講師など
2021/11/21	大阪市都島区防災DAY2021「災害シナリオを読み解きいのちを守る行動を考える」	20	社会福祉法人正真会 加光	湯井上級コーチ
2021/11/24	奈良市老施協 BCP後期研修	40	奈良市役所／オンライン	湯井上級コーチ
2021/11/26	何かあっても障害サービスを続けていくために	40	東村山市役所（同市 障害者自立支援協議 会）	高橋上級コーチ
2021/11/26	尼崎市けま喜楽苑 BCP後期研修	30	けま喜楽苑	湯井上級コーチ
2021/11/27	豊中市NPOアンジュ 防災ワークショップ	30	豊中市豊島北センター	湯井上級コーチ
2021/11/28	東淀川区開発地域防災リーダーアドバンス訓練（支援学校防災アドバイザー）	-	東淀川支援学校	田原認定コーチ
2021/11/28	世木のみんなで防災を考える（南丹市世木地区）	200	南丹市立殿田小学校	前川認定コーチ
2021/11/28	堺市総合防災訓練（大浜中学校）	60	堺市立大浜中学校	湯井上級コーチ
2021/11/29	杉並区防災塾WS	30	杉並区永福町区民センター	鍵屋上級コーチ
2021/11/30	倉敷市真備町箭田地区ヘルプカードWS③	40	倉敷市真備町支所	湯井上級コーチ
2021/12/1	東京都認可外保育研修会	200	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/12/2	大阪府立八尾支援学校PTA研修会	30	大阪府立八尾支援学校	湯井上級コーチ
2021/12/6	地域防災と福祉防災について	20	大阪経済大学人間科学部高井逸史ゼミ	田原認定コーチ
2021/12/12	日本カトリック障がい者連絡協議会	50	オンライン	湯井上級コーチ
2021/12/13	済生会北信越ブロックDCAT研修会	30	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/12/14	日本防災環境講演	120	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/12/14	兵庫県教育委員会R3年度 交流及び共同学習研究協議会	50	兵庫県立視覚特別支援学校／オンライン	湯井上級コーチ
2021/12/15	新潟県はまなす特別支援学校研修	60	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/12/15	東京都医学総合研究所シンポジウム	300	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/12/16	港区民生委員協議会研修会	300	港区赤坂区民センター	鍵屋上級コーチ
2021/12/17	東京都児童館BCP研修	150	オンライン	鍵屋上級コーチ
2021/12/17	京都府立宇治支援学校PTA防災研修	25	京都府立宇治支援学校（YouTube配信併用）	前川認定コーチ
2021/12/20	「福祉防災」の現在と将来に向けて	27	富山県民会館（富山県）	高橋上級コーチ

開催日	活動タイトル 等	参加数	会場	講師など
2021/12/21	国分寺市障害者基幹相談支援センター研修	70	国分寺市cocobunji プラザリオンホール	鍵屋上級コーチ
2021/12/21	倉敷市真備町箭田地区ヘルプカード WS④	40	倉敷市真備町箭田分 館	湯井上級コーチ
2022/1/7	福祉避難所開設訓練と今求められて いる防災教育	90	東京都立矢口特別支 援学校	石塚認定コーチ
2022/1/7	茨城県市町村社協BCP研修	20	茨城県社会福祉協議 会	園崎認定コーチ
2022/1/8	永平寺町個別避難計画講演	80	永平寺四季の森複合 施設 旧傘松閣	鍵屋上級コーチ
2022/1/11	教職員防災研修	80	大阪府立平野支援学 校	田原認定コーチ
2022/1/11	長野県社協「災害福祉カンタンマップ」 講演会	100	オンライン	鍵屋上級コーチ
2022/1/12	島根県防災安全講演会	130	オンライン	鍵屋上級コーチ
2022/1/14	栃木県避難行動要支援者研修	60	栃木県庁	鍵屋上級コーチ
2022/1/14	兵庫県立和田山特別支援学校PTA R3年度防災体験プログラム	200	県立和田山特別支援 学校／オンライン	湯井上級コーチ
2022/1/16	吹田市桃山台地区防災訓練ミニレク チャー	50	吹田市立千里みらい 夢学園 桃山台小学 校	湯井上級コーチ
2022/1/18	福井県社会福祉協議会福井県内社 協職員協研修会（BCP）	45	オンライン	園崎認定コーチ
2022/1/19	大阪府避難行動要支援者講演	120	オンライン	鍵屋上級コーチ
2022/1/21	浦安市個別避難計画講演	60	オンライン	鍵屋上級コーチ
2022/1/21	伊丹市立伊丹特別支援学校教職員 防災研修	60	伊丹支援学校	湯井上級コーチ
2022/1/22	よんなな防災会女子部主催企画「こ れって私だけ？ 防災×行政女性職員 の本音トーク PART2」	25	オンライン	上園上級コーチ
2022/1/23	交野市PTA協議会防災研修会	50	オンライン	湯井上級コーチ
2022/1/26	国連ユニタール Women leadership for diversity and inclusion in D RR	80	オンライン	湯井上級コーチ
2022/1/27	江戸川区講演	80	オンライン	鍵屋上級コーチ
2022/1/27	長野県社協「災害福祉カンタンマップ」 シンポジウム	120	オンライン	鍵屋上級コーチ
2022/1/29	コープこうべ大阪北地区本部防災イベ ント	20	オンライン	湯井上級コーチ
2022/1/30	2021 災害と障がい者のつどい	80	オンライン	湯井上級コーチ
2022/2/1	港区社会福祉法人連絡会学習会	60	オンライン	鍵屋上級コーチ

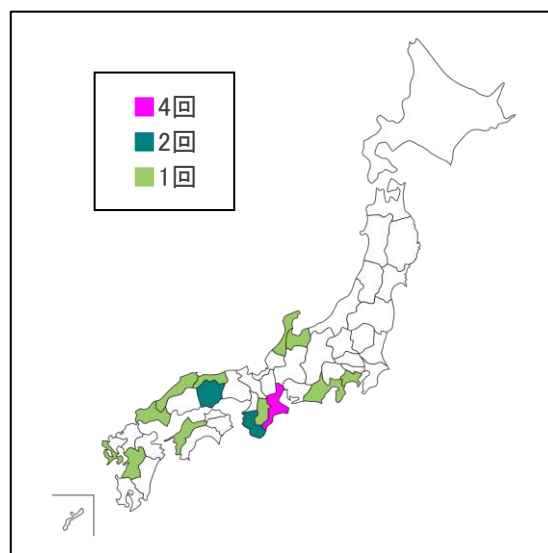
開催日	活動タイトル 等	参加数	会場	講師など
2022/2/1	令和3年度学校安全総合支援事業 成果発表会 基調講演	80	大阪府私学会館	湯井上級コーチ
2022/2/3	世田谷区医療的ケア連絡協議会	100	オンライン	鍵屋上級コーチ
2022/2/4	震災対策技術展講演	80	パシフィコ横浜	鍵屋上級コーチ
2022/2/4	奈良県社会福祉協議会奈良県内社 協BCP研修	45	オンライン	園崎認定コーチ
2022/2/5	男女共同参画の視点を入れた避難所 運営について	12	京都テルサ	前川認定コーチ
2022/2/8	北区社災害ネットワーク研修	100	北区岸町ふれあい館	鍵屋上級コーチ
2022/2/10	吹田市介護保険事業者連絡会BCP 前期研修会	60	吹田市立文化会館メ イシアター／オンライン	湯井上級コーチ
2022/2/11	今日から始められる簡単防災	5	放課後等デイスービス マイステージひまわり西 九条	田原認定コーチ
2022/2/11	茨木市防災女性リーダー講座③女性 の視点・多様な視点をいかした地域防 災講座	20	茨木市男女共同参画 センター／オンライン	湯井上級コーチ
2022/2/12	全国手をつなぐ事業所協議会全国研 修大会・岩手県大会	300	盛岡市メトロポリタン盛 岡	鍵屋上級コーチ
2022/2/12	四国弁護士会連合会 災害と高齢 者・障がい者	40	オンライン	湯井上級コーチ
2022/2/18	長崎県佐世保市こどもふくし協議会B C研修	45	オンライン	園崎認定コーチ
2022/2/19	四日市市防災ステップアップ講座	30	オンライン	鍵屋上級コーチ
2022/2/21	長野県社会福祉施設向けBCP録画	-	長野県社会福祉協議 会	園崎認定コーチ
2022/2/24	宮城県個別避難計画研修会	100	オンライン	鍵屋上級コーチ
2022/2/25	災害版BCPの策定に向けて	30	練馬区福祉人材研 修・育成センター	高橋上級コーチ
2022/3/1	事業継続計画の考え方	30	東京都社会福祉協議 会（同身体障害者福 祉部会）	高橋上級コーチ
2022/3/1	静岡県内社協介護保険部会BCP研 修	40	静岡県社会福祉協議 会	園崎認定コーチ
2022/3/1	静岡県内社協会長会議BCP研修	70	静岡県社会福祉協議 会	園崎認定コーチ
2022/3/1	大阪府立生野支援学校 学校保健 委員会	20	府立生野支援学校／ オンライン	湯井上級コーチ
2022/3/2	高知県黒潮町福祉専門職研修	50	オンライン	鍵屋上級コーチ
2022/3/3	徳島南部圏域福祉防災講演会	70	オンライン	鍵屋上級コーチ

開催日	活動タイトル 等	参加数	会場	講師など
2022/3/10	三重県社協災害時福祉支援リーダー養成講座	80	オンライン	鍵屋上級コーチ
2022/3/13	大野市自主防災会研修	60	オンライン	鍵屋上級コーチ
2022/3/13	川崎市男女共同参画センターすくらむ21 2021年度女性防災リーダー養成研修②	10	川崎市男女共同参画センターすくらむ21	上園上級コーチ
2022/3/14	長崎県個別避難計画作成に係る市町担当者研修会	60	長崎県庁	鍵屋上級コーチ
2022/3/14	倉敷市真備町箭田地区ヘルプカードWS⑤	40	倉敷市真備町箭田分館	湯井上級コーチ
2022/3/15	豊中市NPOアンジュ 防災カフェ	10	豊中市NPOアンジュ	湯井上級コーチ
2022/3/16	災害時における要配慮者のケア地域でできることは	50	グランフロント大阪（オンライン併用）	前川認定コーチ
2022/3/18	兵庫県養父市社会福祉協議会 災害ボランティアフォローアップ研修	30	オンライン	湯井上級コーチ
2022/3/22	厚生労働省児童施設BCP研修	1,000	オンライン	鍵屋上級コーチ
2022/3/22	デイサービスまりも BCP作成研修①	20	大阪市生野区（一社）まりも	湯井上級コーチ
2022/3/24	愛媛県重信川流域4市町社協BCP研修	15	砥部町社会福祉協議会	園崎認定コーチ
2022/3/28	愛媛県個別避難成果報告会	100	オンライン	鍵屋上級コーチ
2022/3/28	宇治市民児協総務部 災害時の要配慮者対応	20	宇治市福祉会館	前川認定コーチ
2022/3/29	吹田市介護保険事業者連絡会BCP後期研修会	60	吹田市立文化会館メイシアター	湯井上級コーチ
2021年度	防災対策・BCP策定助言(1年間アドバイザー契約)	-	社会福祉法人絢会（茨城県八千代町）	園崎認定コーチ
参加者数合計		15,152	(参考) 2019年度9,375名 2020年度4,734名	

その他組織が主催で行った講演等について、2020年度はオンライン34、対面42と、新型コロナウイルス感染症対策として実施が少なくなっていたが、2021年度はオンライン73、現地83とほぼ倍に増えた。また対面とオンラインのハイブリッド開催が13実施されていることと、録画による講演が増えてきたことが、2021年度の特徴と言える。

（１）自治体等での研修

一般財団法人 消防防災科学センターからの受託研修は、7 県での研修を実施した。新型コロナウイルス感染症対策のためウェブ開催が全体の半分になり、前期後期両方の研修をオンラインで開催した県もあった。アンケートの分析から、研修の前期・後期における感想に明確な差は見られなかったが、集合研修・オンライン研修については、集合研修の方が「大いに役立つ」「大変良かった」を占める割合が高い傾向があることが分かった。2018年度から本研修を行っているが、実施場所が西日本に偏っている状況である。



新型コロナウイルス感染症により、今年度も自治体等で実施していた集合型の普及啓発研修は回数・参加人数共に減少してはいるが、ウェブ会議システム（Zoom等）の普及と習熟度が上がってきたことにより、オンライン研修に取り組みやすい環境が整ってきたと言える。

（２）被災地での活動

今年度は、熱海市伊豆山地区土砂災害の被災地を訪問し、現地の状況把握、職員等への聞き取りを行った。被災地外からのボランティア等を制限したことで、被災地では避難生活環境が一層厳しくなっており、福祉避難所や在宅避難者への支援をどのように行っていくかを事前検討しておく必要性を痛感した。

（３）連携の拡充

全国の自治体、社会福祉協議会、社会福祉法人及びJVOAD等ボランティア団体との連携により、研修先の拡大や調査研究の充実が図られた。

（４）認定コーチの合格5名及び次年度以降の研修委託事業の実施体制整備

2021年度は5名が福祉防災認定コーチに合格した。福祉防災認定コーチ研修をオンライン開催とすることで、関東圏以外でのコーチが増えてきた。

消防防災科学センター研修の講師として活躍していただくため、OJTを積極的に進めるようにしたが、日程調整等が難しい現状となった。

また、厚労省が福祉施設にBCP策定を義務付けることになり、当会版の福祉施設BCPひな型と厚生労働省が公開した「新型コロナウイルス感染症発生時の業務継続ガイドライン」「自然災

害発生時の業務継続ガイドライン」のすり合わせを行い、福防協版福祉施設BCPひな型のバージョンアップを実施した。

（５）企業版ふるさと納税を活用した福祉避難所整備事業の展開

企業版ふるさと納税を活用した事業として、株式会社百年防災社と共に展開した結果、秋田県男鹿市での福祉避難所訓練が実施できた。また、島根県浜田市でも福祉避難所物資整備が行われた。

（６）防災スタートBOX、福祉BCPひながたセットの発売

社会福祉法人埼玉福祉会の協力を得て、災害発生後の初動対応をスムーズに進める防災スタートBOX、福祉BCPひながたセットの販売を行った。

東京ガス株式会社の利用者に向けたBCPオンデマンド研修受講者にも、これらのボックスの購入を進めている。

（７）テキスト、著書の出版

2022年5月に介護保険施設向けに鍵屋代表理事が監修した「介護サービスの業務継続計画（BCP）策定のポイント」がぎょうせいから出版された。

（８）福祉防災コミュニティの維持・発展

認定コーチへの積極的な声掛けを実施し、個人会員44名となった。

会員には、クラウドサービス「kintone（キントーン）」のアカウントを発行し、福祉防災関連記事の共有や講師派遣依頼情報の提供、旅費精算等のシステム化を行った。

2021年度の成果を受けた新たな課題

（１）研修事業

当会が実施するBCP研修・福祉避難所研修については、上級コーチ２名、もしくは上級コーチ１名と認定コーチ１名をセットとして実施している。2021年度には5名の認定コーチが誕生し、認定コーチは35名となったが、上級コーチの増員はできていないため、今後もこの体制で研修を行うためには上級コーチの増員、もしくは認定コーチ２名でも研修を実施できるようフォローアップが必要である。

新型コロナウイルス感染症対策のため、リモートでの講演や研修が一層求められるようになってきた。これらに対応するためには、コーチのリモート講演技能の習熟も必要であり、また組織としてウェブ会議に対応できる器材（Zoomアカウントやマイク等）の充実も必要である。

（２）安全安心魅力施設の認定

安全安心魅力施設認定の基準作りが進まなかった。

安全安心魅力施設の認定を行うためには、福祉施設のBCPの作成・訓練・見直しによる実効性確保が不可欠であるが、BCP作成の普及研修に留まり、訓練については手付かずであった。

昨年度作成したBCP評価基準、及び（新）BCPひな型を活用し、今後、訓練、見直しの評価基準を作成し、安全安心魅力施設の認定に向け準備を進める必要がある。

（３）福祉防災コミュニティの維持・発展

会員制度について、認定コーチへの積極的な声掛けを実施し、個人会員は44名となった。会員にはクラウドサービス「kintone（キントーン）」のアカウントを発行し、福祉防災関連記事の共有や講師派遣依頼情報の提供等を行える仕組みを作った。福祉防災関連記事の共有については、現在は事務局が気付いたものをアップする程度になっているため、今後は会員等による更新が進むことを期待している。

認定コーチのフォローアップとして「認定コーチ資格研修」「フォローアップ研修」をリモート開催としたことで、これまで参加が難しかった認定コーチの参加が可能となり、研鑽の場を提供することができた。今後は、kintoneを使った知見・最新の防災情報等の提供にも、期待したい。

（４）新たに顕在化した課題

① 福祉避難所整備

全国の自治体で福祉避難所マニュアルを整備しているところは15%であり、最低限の備蓄をしているのが30%でしかない。福祉避難所整備のインセンティブがいかに低いか浮き彫りになった。その中で、本協会が仲介して、企業版ふるさと納税を活用した福祉避難所整備を、秋田

県男鹿市と島根県浜田市で実施できた。今後、このような企業版ふるさと納税を活用した福祉避難所整備を進めるためには、市区町村や企業における制度の認知度を高める必要がある。

②社会福祉法人や企業と連携したBCP等の普及啓発事業

効果的なBCP作成研修や福祉避難所マニュアルを作成しているが、本協会のための広報活動では多くの自治体や福祉事業者にアプローチすることが難しい。今後は、社会福祉法人や企業と連携した強力な普及啓発活動が重要になる。

③災害時の福祉支援ネットワーク

被災地ヒアリングの結果、被災現場では、福祉関係者が多数ボランティアとして活動するが、情報共有や活動支援の拠点がなく、支援に重複、抜け漏れ落ちが常態化している。そこで、福祉支援関係者が連携して、被災地を支える仕組みの構築が求められる。

2022年度の取組み内容

（１）企業版ふるさと納税を活用した福祉避難所整備事業を広く展開

企業版ふるさと納税をも活用して、自治体の金銭的負担なしで、福祉避難所、特別支援学校に、福祉避難所整備に必要なマニュアル、開設キット、トイレ、給電機等の普及を図る。現在、いくつかの自治体で進行中である。また、複数企業と寄付の調整中である。

- ・福祉避難所マニュアル作成研修、及び開設BOX訓練を自治体単位で実施
- ・水不要で清潔に処理できるバリアフリートイレ2台
- ・医療器具にも使える給電機1台
- ・その他必要な消耗品

以上のような福祉避難所資機材を普及させ、全国的な福祉避難所ネットワークを築く。災害時には先遣隊を派遣し、福祉避難所立ち上げ、応援職員、支援物資の確保調整を行う。

（２）広報体制の強化

4月からFMサルースで毎週日曜日に放送される「サロン・ド・防災」のスポンサーとなって協会の知名度向上を図っている。またホームページをリニューアルし、福祉避難所マニュアルの無償配布を前面に打ち出した。

今後、協会の福祉避難所資機材等で協力して下さる（社）埼玉福祉会、日本セイフティー株式会社、ホンダ株式会社、福祉BCPの普及啓発に協力していただいている東京ガス株式会社、ワークスモバイルジャパン株式会社等と連携して、広報体制を強化していく。

（３）防災スタートBOX、福祉避難所開設BOXの発売

一昨年度から、（社会福祉法人）埼玉福祉会の協力を得て、災害発生後の初動対応をスムーズに進める防災スタートBOX及び福祉避難所開設BOXを発売した。また、これを使った防災訓練を下記の（一財）消防防災科学センター研修、広島県等で行う。

（４）都道府県、市区町村、社会福祉協議会を対象に、福祉施設の事業継続計画（BCP）研修、福祉避難所マニュアル作成研修を実施

本年度は、（一財）消防防災科学センターからの委託事業により、7県で福祉避難所マニュアル作成研修が決まっている。厚労省が福祉施設に3年以内のBCP作成を義務付けたことにより、自治体や社会福祉協議会からBCP作成研修依頼や問合せが多くなり、広島県や愛知県岡崎市での実施が決まっている。引き続き、研修担当事務職員1名が調整作業を行う。

（５）福祉防災の関係者を研修講師「福祉防災認定コーチ」として養成

教科書学習、研修参加、レポートの3段階で実施する。

- ・自宅でのテキスト学習
- ・福祉防災計画基礎研修およびチェック研修に参加
- ・理解度確認テスト及び3千字以上のレポートを提出

以上で、良好な評価を得たものを「福祉防災認定コーチ」として認定する。

上記、（１）（２）事業を通じて、受託が多くなった場合は、専門コンサルタントと連携して、研修講師の確保を図る。また、必要に応じて講師養成研修を実施する。

（６）福祉防災コミュニティの維持・発展

福祉防災認定コーチおよび研修修了者、関係者による会員制度を継続する。今後、認定コーチには、積極的に既存の研修等で研鑽を積めるように声掛けをし、上級コーチへの移行を進め、モラルアップを図る。研修等を継続して得た知見、最新の防災情報などを、クラウドサービス「kintone（キントーン）」を利用し、会員に提供する。

上記事業等により、個人会員50名、法人正会員10施設、法人賛助会員1法人を目標とする。

（７）被災した福祉関係者への人的応援、及び応援調整

福祉防災コミュニティのメンバーを中心に、被災した福祉関係者に必要な人的応援、および応援調整を行う。このため、JVOADと連携して災害時の福祉活動について調査を実施する。また、災害時に効果的な対応ができるように、調査研究、被災地派遣研修、ボランティア支援等活動を随時、実施する。

（８）協会が認定する「安全安心魅力施設」の基準作り

福祉防災計画を作成し、訓練、見直しなど良好なマネジメントができている福祉施設を「安全安心魅力施設」として認定するための基準作りを行う。

法人情報

一般社団法人福祉防災コミュニティ協会

〒101-0054

東京都千代田区神田錦町3-21

ちよだプラットフォームスクエア

電話 044-455-6230／Fax 044-455-6240

E-Mail fukushibousai@gmail.com

URL <http://fukushi-bousai.jp/>

一般社団法人
福祉防災
コミュニティ協会



事務局

〒213-0001 神奈川県川崎市高津区溝口3-25-10 日本ミクニヤ株式会社内

【添付資料】

- ・ 第6回決算報告書

決 算 報 告 書

(第 6 期)

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会

東京都千代田区神田錦町三丁目21番地

貸借対照表

令和 4 年 3 月 31 日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	6,857,608	5,665,250	1,192,358
未収入金	3,000,000	0	3,000,000
前払費用	16,500	16,500	0
流動資産合計	9,874,108	5,681,750	4,192,358
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3) その他固定資産			
保証金	30,000	30,000	0
その他の固定資産合計	30,000	30,000	0
固定資産合計	30,000	30,000	0
資産合計	9,904,108	5,711,750	4,192,358
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,845,058	1,875,826	△ 30,768
前受金	20,000	0	20,000
預り金	24,157	7,531	16,626
短期借入金	1,000,000	1,000,000	0
未払法人税等	70,000	70,000	0
流動負債合計	2,959,215	2,953,357	5,858
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	2,959,215	2,953,357	5,858
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(2) その他一般正味財産	6,944,893	2,758,393	4,186,500
一般正味財産	6,944,893	2,758,393	4,186,500
正味財産合計	6,944,893	2,758,393	4,186,500
負債及び正味財産合計	9,904,108	5,711,750	4,192,358

正 味 財 産 増 減 計 算 書

令和 3 年 4 月 1 日 から 令和 4 年 3 月 31 日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0
受取入会金	0	0	0
受取会費	160,000	120,000	40,000
賛助会員受取会費	160,000	120,000	40,000
事業収益	12,914,386	6,327,950	6,586,436
事業収益	12,914,386	6,327,950	6,586,436
受取補助金等	0	0	0
受取負担金	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
雑収益	411,421	378,440	32,981
受取利息	21	15	6
雑収益	411,400	378,425	32,975
経常収益計	13,485,807	6,826,390	6,659,417
(2) 経常費用			
事業費	8,161,899	4,028,089	4,133,810
旅費交通費	1,479,523	595,000	884,523
通信運搬費	62,330	49,310	13,020
消耗品費	2,445,532	71,679	2,373,853
燃料費	7,694	0	7,694
賃借料	153,950	53,100	100,850
会議費	1,180	0	1,180
支払手数料	880,000	550,000	330,000
委託費	3,131,690	2,709,000	422,690
管理費	1,067,408	857,742	209,666
新聞図書費	0	31,680	△ 31,680
旅費交通費	238,620	0	238,620
通信運搬費	101,014	67,368	33,646
消耗品費	10,074	12,320	△ 2,246
広告宣伝費	274,978	260,000	14,978
燃料費	2,195	0	2,195
賃借料	240,848	219,638	21,210
諸会費	50,000	160,000	△ 110,000
租税公課	5,600	14,035	△ 8,435
支払手数料	144,079	92,701	51,378
経常費用計	9,229,307	4,885,831	4,343,476
評価損益調整前経常増減額	4,256,500	1,940,559	2,315,941
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	4,256,500	1,940,559	2,315,941
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益	0	0	0
固定資産受贈益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産売却損	0	0	0
固定資産減損損失	0	0	0

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
災害損失	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	4,256,500	1,940,559	2,315,941
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
一般正味財産増減額	4,186,500	1,870,559	2,315,941
一般正味財産期首残高	2,758,393	887,834	1,870,559
一般正味財産期末残高	6,944,893	2,758,393	4,186,500
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	0	0	0
受取負担金	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
固定資産受贈益	0	0	0
基本財産評価益	0	0	0
特定資産評価益	0	0	0
基本財産評価損	0	0	0
特定資産評価損	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高			
正味財産期末残高	6,944,893	2,758,393	4,186,500